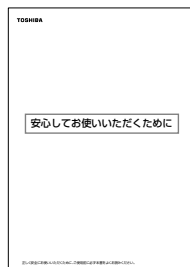
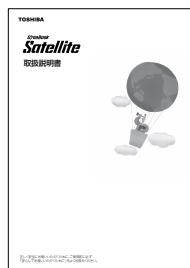
マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- 周辺機器の接続
- バッテリで使う方法
- 困ったときは
- 再セットアップ

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。
  本製品の電源を入れた状態で、［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックするとご覧になれます。

もくじ

4章　周辺機器の接続　91

5章　バッテリ駆動　117

6章　システム環境の変更　127

7章　困ったときは　151

8章　再セットアップ　193

9章　こんなときは　215

付録 233

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP
Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

Windows　Windows XP を示します。

Microsoft Office
Microsoft® Office Personal Edition 2003（Microsoft® Office OneNote® 2003 を含む）を示します。

MS-IME　Microsoft® IME 2003 ／ナチュラルインプット 2003 を示します。

ドライブ　DVD スーパーマルチドライブ／ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ／ CD-ROM ドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

DVD スーパーマルチドライブモデル
DVD スーパーマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデル
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブが内蔵されているモデルを示します。

CD-ROM ドライブモデル
CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。

Office 搭載モデル
Microsoft® Office Personal Edition 2003（Microsoft® Office OneNote® 2003 を含む）がプレインストールされているモデルを示します。

無線 LAN モデル
無線 LAN 機能が内蔵されているモデルを示します。

Pentium モデル
インテル® Pentium® M プロセッサ搭載モデルを示します。

Celeron モデル
インテル® Celeron® M プロセッサ搭載モデルを示します。

i.LINK 内蔵モデル
i.LINK（IEEE1394）コネクタが装備されているモデルを示します。

記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱の CD ／ DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、OneNote、Outlookは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、Pentium、Celeron、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ConfigFree は株式会社東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- Sonic RecordNow!は、Sonic Solutions の登録商標です。
- Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の 3 つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

・インテル Pentium M プロセッサ
・インテル 855 チップセット ファミリ
・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
・AC アダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用している場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温 5 ～ 30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windowsのシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法でパーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に決められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像を、本製品での壁紙以外の用途に使用することを禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。

  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について「9章 4 お客様登録をする」

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1章

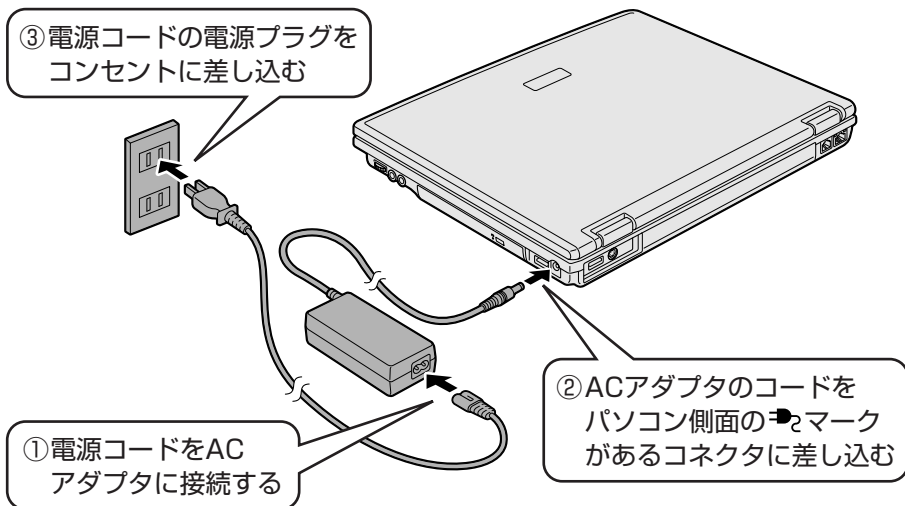
セットアップ

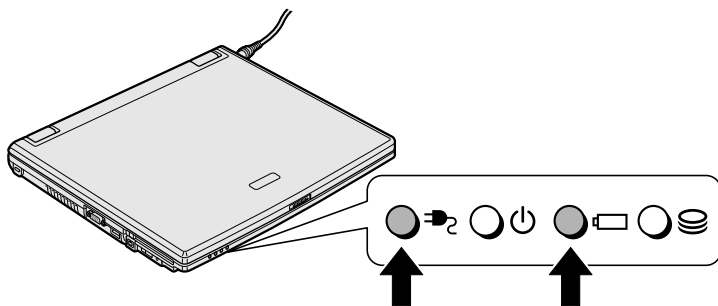
電源を入れて、パソコンを使えるようにするための
Windows のセットアップを行います。

1 パソコンの準備

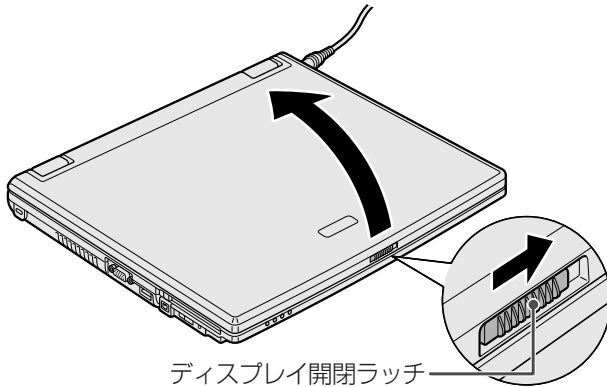
ご購入時の状態で、パソコン本体にバッテリパックが取り付けられているモデルと、取り付けられていないモデルがあります。取り付けられていないモデルの場合、本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを取り付けてから、電源コードと AC アダプタを接続してください。

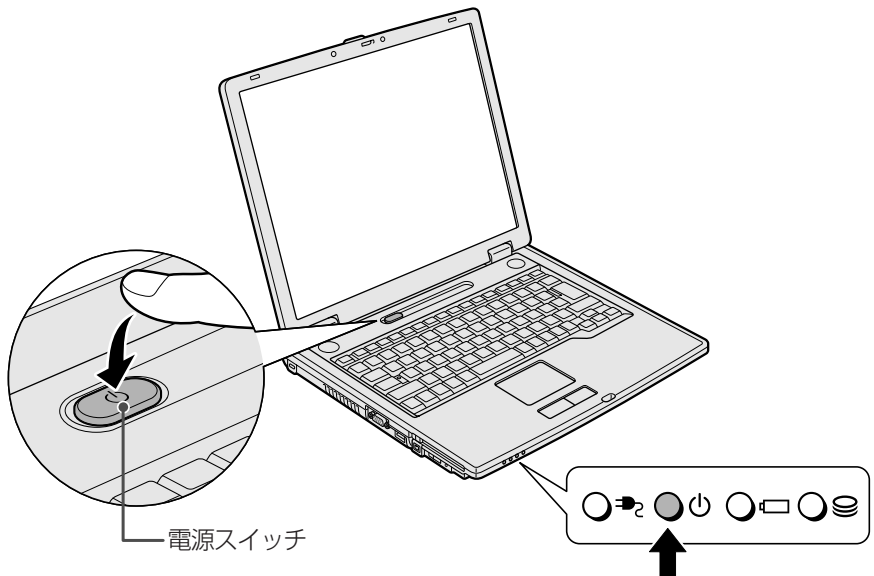
参照 「5 章 1-❸-1 初めて取り付けるとき」

1 電源コードと AC アダプタを接続する

接続すると

DC IN LED が緑色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

② 電源を入れる

1 パソコンのディスプレイを開ける

ディスプレイ開閉ラッチをスライドし、片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

2 電源スイッチを押す

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

2 Windowsのセットアップ

パソコンを使えるようにするために、Windowsのセットアップを行います。
セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードやACアダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

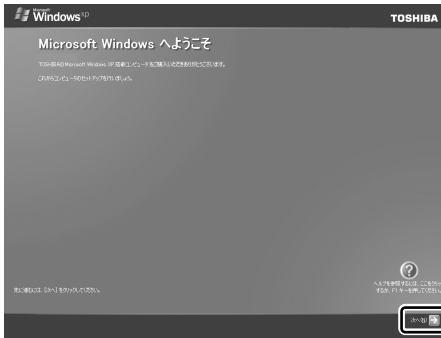
- 周辺機器は接続しないでください。
  セットアップは、バッテリパックを取り付けてからACアダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください。
  セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください。
  セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう1度表示するには、Shiftキーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用するWindowsの管理番号を「Product Key」といいます。
  Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

2 Windows XP のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。

音量は本体右側面にあるボリュームダイヤルで調節できます。

参照 音量の調節について「3章 5 サウンド機能」

1 [次へ] ボタンをクリックする

画面右下の ? ボタンをクリックするか F1 キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。

役立つ操作集

クリックとは?

タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」(ポインタ)が動きます。
目的の位置にポインタをあわせたあと、左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

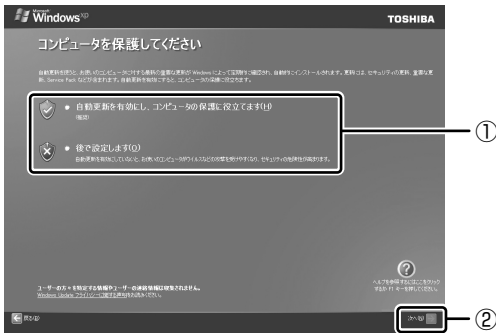
参照 詳しい使いかた
「3章 3 タッチパッド」

2 ［使用許諾契約］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

▼ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。

［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

3 目的にあわせてどちらかの項目の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

4 ［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

ネットワークを使用する場合は必ず入力してください。
半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

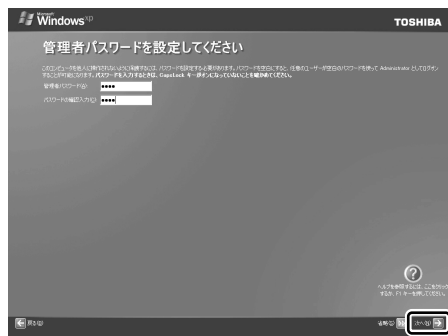
［管理者パスワードを設定してください］画面が表示されます。

5 ［管理者パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力する

Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。
パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 入力に使うキーの位置について「3 章 2 キーボード」

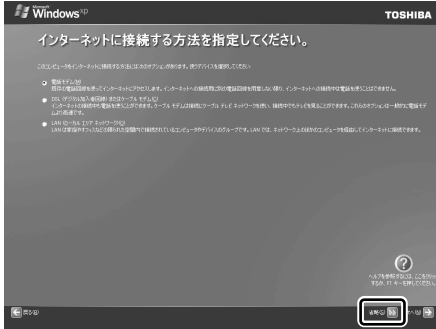
［管理者パスワード］欄での入力後、Tabキーを押すと「｜」が［パスワードの確認入力］欄に移動します。「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

［このコンピュータをドメインに参加させますか？］画面が表示されます。
ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

7 ［いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

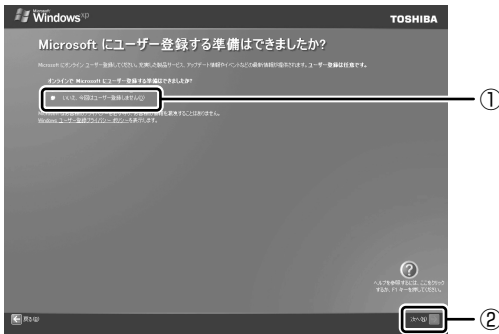
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることもあります。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

8 ［省略］ボタンをクリックする

画面が表示される前に、［インターネット接続を確認しています］画面が表示されることがあります。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。

［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示された場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。

［Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。

マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

9 ［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

10 ［ユーザー 1］欄に使う人の名前を入力する

［ユーザー 1］欄にポインタをあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。

参照 入力に使うキーの位置について「3 章 2 キーボード」

Windows XP では複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- **ローマ字入力で入力する場合**
  半角英数字で「dynabook」と入力したいときは、はじめにキーボードの半／全キーを押して、日本語入力システムMS-IMEの日本語入力モードをオフにしてから、DYNABOOKと押します。
  キーを押しても文字が表示されない場合は、［ユーザー］欄に「｜」（カーソル）が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、［ユーザー］欄をクリックしてください。
  文字の入力を間違えたら、BackSpaceキーを押して入力ミスした文字を削除します。

11 ［次へ］ボタンをクリックする

［設定が完了しました］画面が表示されます。

12 ［完了］ボタンをクリックする

Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  C ドライブ：NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

  参照 ユーザ登録について「9 章 4 お客様登録をする」

Windows XP の使いかた

Windows XP の使いかたについては、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

Windows XP の最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/
- Windows XP のアップデート
  URL：http://windowsupdate.microsoft.com/

③ セットアップを終了したあとに

1 ドメインに接続する

企業内など、ある 1 つにまとまったネットワークをドメインと呼びます。
ここでは、本製品をドメインに接続する設定方法を説明します。
ドメインのユーザ名やパスワードなど、詳しい設定方法がわからない場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。
本製品を複数のユーザで使用している場合は Administrator と呼ばれる管理者のユーザに切り替えてから設定を行ってください。

ドメインの設定方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

3 ［コンピュータの基本的な情報を表示する］をクリックする

［システムのプロパティ］画面が表示されます。

4 ［コンピュータ名］タブで［変更］ボタンをクリックする

5 ［ドメイン］の左にある○ をクリックしてから接続するドメインの名前を入力し、［OK］ボタンをクリックする

6 ドメインの［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］ボタンをクリックする

7 ［OK］ボタンをクリックする

8 ［OK］ボタンをクリックする

パソコンを再起動してください。

2 ユーザー補助について

画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XPでは［ユーザー補助の設定ウィザード］または［ユーザー補助のオプション］でユーザを補助します。

【 ユーザー補助の設定ウィザード 】

［ユーザー補助の設定ウィザード］では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。質問の回答にあわせ、自動的にパソコンを設定します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

2 ［Windowsを構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する］をクリックする

【 ユーザー補助のオプション 】

［ユーザー補助のオプション］では、直接設定することができます。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

2 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

詳しくは、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして『ヘルプとサポートセンター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の［ユーザー補助］をクリックして、説明をお読みください。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windows のセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

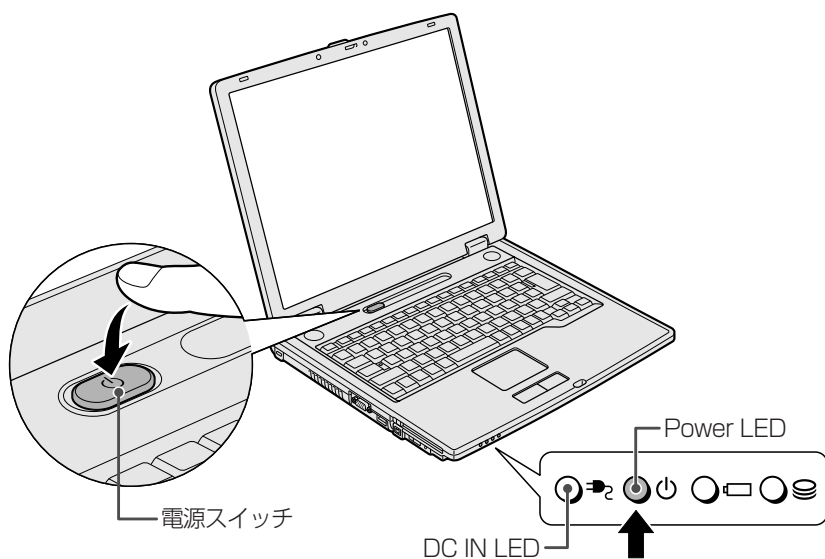
参照 初めて電源を入れるとき「1 章 セットアップ」

お願い 電源を入れる前に

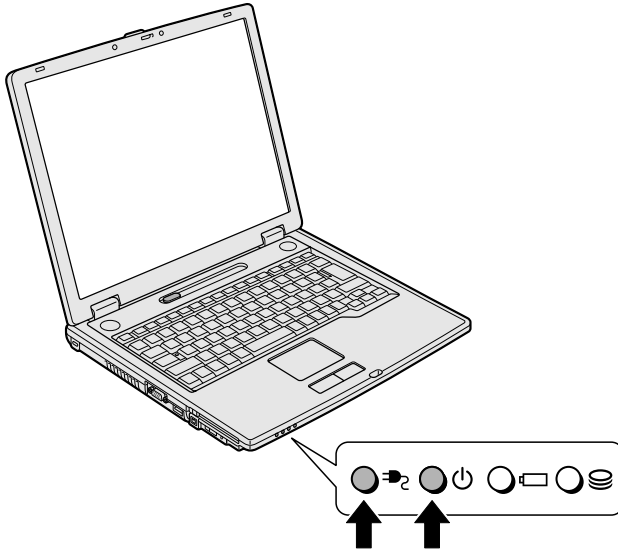
- 各スロットにメディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 （AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常）
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態中

【 ユーザパスワードを設定している場合 】

ユーザパスワードを設定している場合は、電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したユーザパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

メモ

- 休止状態を実行している場合は、電源を入れた直後に表示されます。
- ユーザパスワードの入力ミスを3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照 パスワードについて「6 章 4 パスワードセキュリティ」

【 メッセージが表示される場合 】

不明なメッセージについては、「7 章 2 Q&A 集 メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【 一時的に変更する 】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 F12キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → ドライブ → FDD → ネットワーク → PC カード

2 →または←キーで起動したいドライブを選択し、Enterキーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【 あらかじめ設定しておく 】

「東芝 HW セットアップ」の［OS の起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6 章 2 東芝 HW セットアップを使う」

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 スタンバイ、休止状態を実行する方法
「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

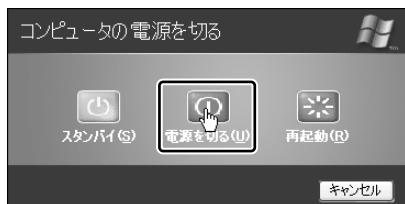
お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- DC IN LED、Power LED、Battery LED 以外の LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

2 ［電源を切る］をクリックする

【 ドメイン参加している場合 】

［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし①、［シャットダウン］を選択し②、［OK］ボタンをクリックしてください。

Windows が終了し、電源が切れます。Power ⏻ LED が消灯します。

お願い **電源を切った後は**

- 周辺機器の電源は、パソコンの電源を切った後に切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切った後すぐに入れないでください。動作が不安定になる場合があります。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒以上押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていない データは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- DVD スーパーマルチドライブモデル、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルの場合、スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行した場合、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1 スタンバイ

作業中の状態をメモリに保存して、作業を中断する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

2 ［スタンバイ］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windowsのシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［スタンバイ］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。
メモリへの保存が終わると、スタンバイ状態になります。画面が真っ暗になり、Power ⏻ LEDがオレンジ色に点滅します。

メモ

Fn＋F3キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

2 休止状態

作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断する機能です。次に電源を入れると、状態を再現できます。
購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効な場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

3 Shiftキーを押したまま［休止状態］をクリックする

Shiftキーを押している間は、［スタンバイ］が［休止状態］に変わります。

ドメイン参加している場合は、［Windowsのシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［休止状態］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。
Disk LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。

メモ

Fn＋F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節❷-1 手順1」を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

購入時には［シャットダウン］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［アクション設定］タブの［電源ボタンを押したとき］で［入力を求める］［スタンバイ］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、電源スイッチを押しても何も動作しません。
③ ［OK］ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順1の②で［入力を求める］を選択したときは、［Windowsのシャットダウン］画面または［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。
［何もしない］を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には［スタンバイ］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック➝［東芝省電力］をクリックする

② ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［スタンバイ］［休止状態］のいずれかを選択する

③ ［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の②で［スタンバイ］または［休止状態］を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。［何もしない］を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

3章

本体の機能

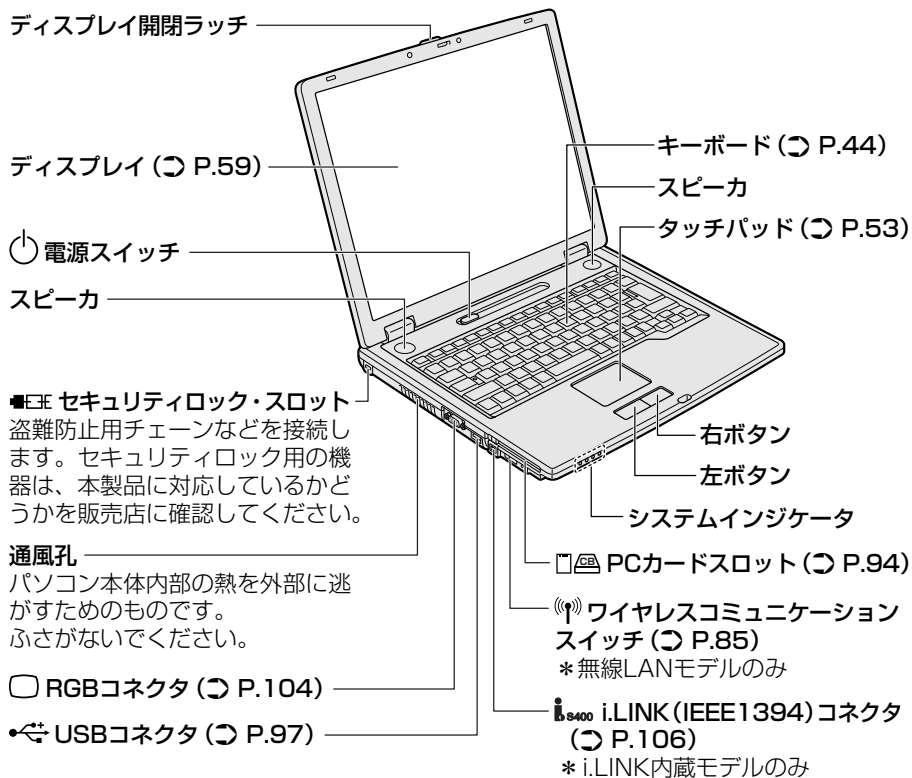
このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。
各部の手入れについても確認してください。

1　各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

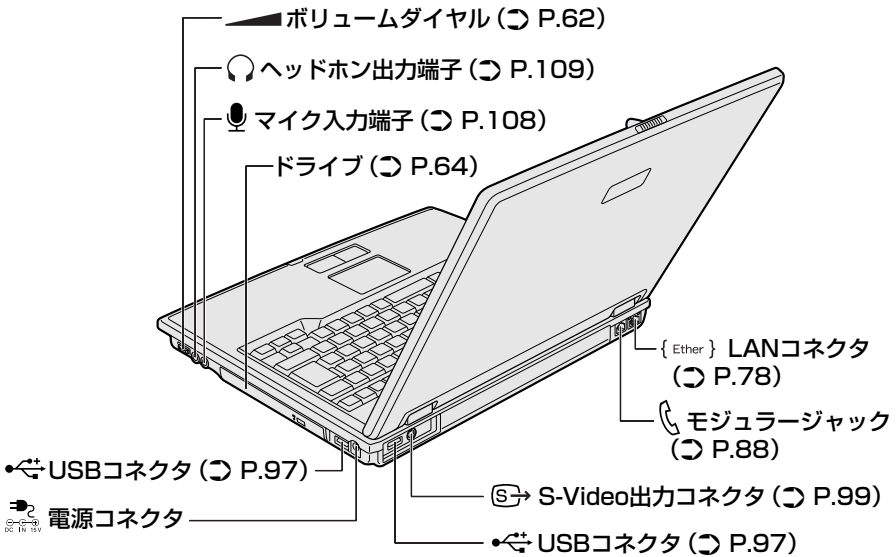
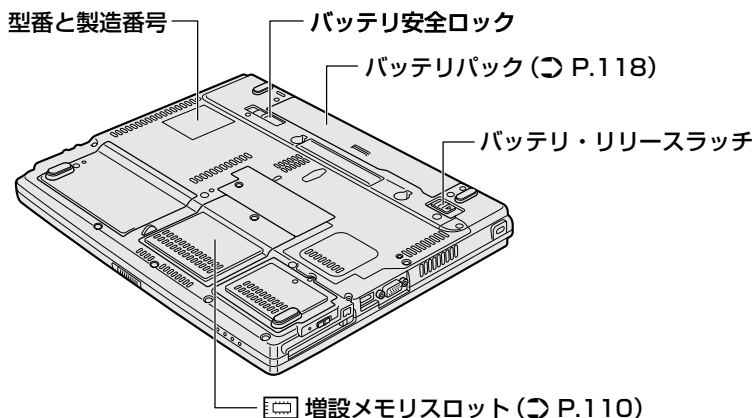
メモ

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。
  ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

1 前面図

【 システムインジケータ 】

それぞれは、次の状態を示します。

	DC IN LED	電源コードの接続の状態
	Power LED	電源の状態
	Battery LED	バッテリの状態
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている

2 背面図

③ 裏面図

通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

⚠ 警 告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず「1 章 1-❶ 電源コードとACアダプタを接続する」に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。
- 電源コードの電源プラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、電源プラグにホコリがたまることがあります。火災・感電を防ぐために定期的にホコリをふき取ってください。

⚠ 注 意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

お願い パソコン本体／ACアダプタ／電源コードの取り扱いと手入れ

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、ACアダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
  あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
  ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。＊1
  温度５～35℃、湿度20～80％
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

＊1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。

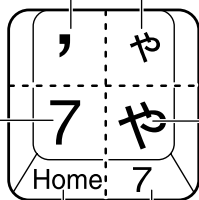
2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

Arrow Mode(アローモード)LED
文字入力のアロー状態を示す
Numeric Mode(ニューメリックモード)LED
文字入力の数字ロック状態を示す
PrtSc(プリントスクリーン)
<SysRq(システムリクエスト)>キー
Pause(ポーズ)<Break(ブレーク)>キー
Ins(インサート)キー
文字の入力モードを挿入／上書きに
切り替えるときなどに使う
Del(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
BackSpace
(バックスペース)キー
Enter(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
オーバレイキー
Shift(シフト)キー
矢印キー
カーソル移動などに使う
また、Fn（エフエヌ）キーとの
組み合わせにより、特殊機能を
実行するときに使う
Ctrl(コントロール)キー
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンやマウスの右ボタンを
押すことと同じ動作を行いたいときに使う
Alt（オルト）キー
カタカナ／ひらがな<ローマ字>キー
変換キー

【 文字キー 】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている２〜６種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

参照 アロー状態、数字ロック状態
「本節 ❷-Fnキーを使った特殊機能キー」

2 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
Fn＋Esc 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度Fn＋Escキーを押します。
Fn＋F1 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定（［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで、［パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
Fn＋F2 〈省電力モードの設定〉	Fn＋F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力」のプロファイルが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびにプロファイルが切り替わります。
Fn＋F3 〈スタンバイ機能の実行〉	Fn＋F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。＊1
Fn＋F4 〈休止状態の実行〉	Fn＋F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます。＊1

＊1 表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 4 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈本体液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈本体液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On にしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 ＊ 本機能はサポートしておりません。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 参照 「本章 3-❹ タッチパッドを無効／有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバレイ機能〉	キー前面左に印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう 1 度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバレイ機能〉	キー前面右に印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう 1 度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーションによっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう 1 度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+(↑) 〈PgUp（ページアップ）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+(↓) 〈PgDn（ページダウン）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。

キー	内容
Fn＋← 〈Home（ホーム）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn＋→ 〈End（エンド）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
Fn＋1 ＊2 〈縮小〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
Fn＋2 ＊2 〈拡大〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

＊2 「TOSHIBA Smooth View」をインストールしている場合のみ、使用できます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。
初めて使用するときには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。
インストール後、起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックしてください。以降は自動的に起動し、通知領域にアイコン（　）が表示されます。

「Fn-esse」

「Fn-esse」は、Fnキーと特定のキーを押すと、簡単にアプリケーションを起動できるアプリケーションです。あらかじめ特定のキーと起動するアプリケーションの設定が必要です。
起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Fn-esse］をクリックしてください。
「Fn-esse」でFn＋1キーまたはFn＋2キーに何らかの動作を登録していても、「TOSHIBA Smooth View」をインストールすると使用できなくなります。

【 (Windows)キーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
(Windows)＋(R)	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
(Windows)＋(M)	すべての画面を最小化する
(Shift)＋(Windows)＋(M)	(Windows)＋(M)で最小化したすべての画面を元に戻す
(Windows)＋(F1)	『ヘルプとサポート センター』を起動する
(Windows)＋(E)	［マイコンピュータ］画面を表示する
(Windows)＋(F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl)＋(Windows)＋(F)	他のコンピュータを検索する
(Windows)＋(Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows)＋(Break)	［システムのプロパティ］画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl)＋(Alt)＋(Del)	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。＊1 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt)＋(PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

＊1：ドメインに参加している場合、ユーザアカウントで「ようこそ画面を使用する」のチェックをはずした場合には、［Windows のセキュリティ］画面が表示されますので、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

お願い キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

3 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。(半/全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。

あ 般 CAPS KANA

Office 搭載モデルでは、Microsoft Office OneNote などを起動すると、日本語入力が MS-IME からナチュラル インプットに切り替わります。ナチュラル インプットは日本語入力時の文字変換を快適にする入力システムです。
詳しくは「Microsoft ナチュラル インプット」のヘルプをご覧ください。

入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力は(Alt)＋(カタカナひらがな)キーを押すと切り替えられます。
この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。
常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

① ツールバーの［ツール］アイコン（ ）をクリックして表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
② ［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、(Space)キーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度(Space)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。
(↑)(↓)キーで選択し、(Enter)キーを押します。

ヘルプの起動方法

1 ［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリック→［Microsoft(R)IME スタンダード］または［Microsoft(R)ナチュラル インプット］→［目次とキーワード］をクリックする

3 タッチパッド

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。これを「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

お願い **操作にあたって**

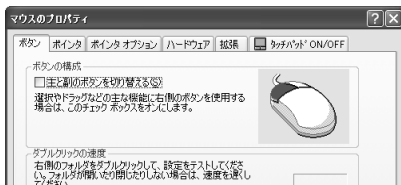
タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

1 タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 「マウスのプロパティ」の設定方法

1 タスクバーの［Touch Pad］アイコン（ ）をダブルクリックする

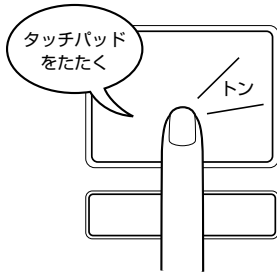
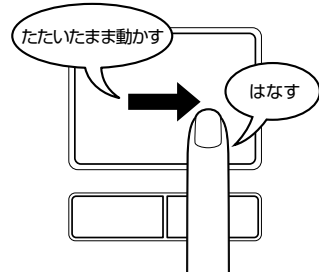
画面が表示されます。

2 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

② タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

【 クリック / ダブルクリック 】
タッチパッドを 1 回軽くたたくとクリック、2 回たたくとダブルクリックができます。

【 ドラッグアンドドロップ 】
タッチパッドを続けて 2 回たたき、2 回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。

2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、［拡張］タブでできます。［マウスのプロパティ］画面で、次のように操作してください。

1 ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

［拡張機能の設定］画面が表示されます。

［拡張機能の設定］画面の［タッチパッド］タブで設定できる機能は、次のようになっています。

ボタンの設定	タッチパッドの左上、右上、左下、右下をタッピングしたときの動作や、各ボタンの動作などを設定できます。
タッチパッド面の設定	タッチパッドでブラウザの動作をしたり、スクロールをしたりできるよう設定できます。
ポインタ速度とタッピングの設定	タッチパッド操作でのポインタ速度やタッピング、タッチ感度などの各設定ができます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の［説明］フィールドに機能説明が表示されます。

役立つ操作集

ポインタの形や速度を変える

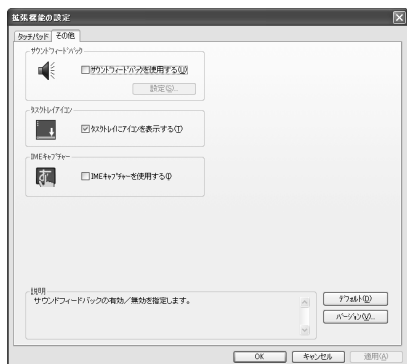
［マウスのプロパティ］では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。
［ポインタ］タブでは形を、［ポインタオプション］タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。

3 その他の設定

［拡張機能の設定］画面の［その他］タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。
［マウスのプロパティ］画面で、次のように操作してください。

1 ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

［拡張機能の設定］画面が表示されます。

2 ［その他］タブを選択する

【 サウンドフィードバック 】

チェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。［設定］ボタンをクリックすると、［サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ］画面が表示されます。
［サウンド］タブの［プログラムイベント］で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【 タスクトレイアイコン 】

チェックすると、通知領域に［Touch Pad］アイコン（ ）が表示されます。
購入時に表示される［タッチパッド］アイコンと同等の機能を持つので、通常は使用しません。

【 IME キャプチャー 】

チェックすると、タッチパッドを IME パッドの手書き入力エリアとして使用できます。
設定後、IME パッドの手書き入力エリアを左クリックすると、ポインタが羽に変わり、タッチパッドを IME パッドの手書き入力エリアとして使用できるようになります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の［説明］フィールドに機能説明が表示されます。

4 タッチパッドを無効／有効にするには

［タッチパッド ON/OFF］タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【 タッチパッドの ON/OFF 】

［有効］をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、［無効］をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。
タッチパッドが無効に設定されている間は、通知領域に無効を示すアイコン（ ）が表示されます。

タッチパッドの有効／無効は、Fn＋F9キーでも切り替えることができます。
Fn＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから手を離してから行ってください。
Fn＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1 度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると正常に操作できるようになります。

5 PadTouch 機能を使う

「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、さまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。
次のようなときに使用すると便利です。

- ウインドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
- Internet Explorer の［お気に入り］に登録されているホームページを開きたい
- 現在実行中のウインドウの一覧を表示して、アクティブなウインドウを切り替えたい

初めて「PadTouch」を使用するときはインストールが必要です。

1 インストール方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

インストール後はパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。
詳しい使用方法は、「PadTouch」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動

1 通知領域の［PadTouch］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

お願い **タッチパッドの手入れ**

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

4 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「4章 5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

解像度	表示可能色数
2048×1536ドット＊1	1,677万色
1920×1440ドット	
1600×1200ドット	
1400×1050ドット	
1280×1024ドット	
1024×768ドット	
800×600ドット	

＊1 Pentiumモデルのみ

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

- 1,677 万色はディザリング表示です。
  ディザリングとは、1 画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677 万色はディザリング表示です。本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

2 ［設定］タブの［画面の解像度］で、解像度を変更する

3 ［OK］ボタンをクリックする

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布でふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

5 サウンド機能

本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1. **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする**
2. **それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する**
   つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。
この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。
購入時は、本機能が有効に設定されています。
消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［関連項目］の［コントロールパネルのその他のオプション］をクリックする

3 ［ SigmaTel Audio］をクリックする

4 ［詳細］タブで［省電力機能を有効にする］をチェックする

5 ［節電モードに入るまでの時間］に待ち時間（秒）を設定する

通常 5 秒 〜10 秒程度が適当です。

6 ［OK］ボタンをクリックする

メモ

［イコライザ］タブでは、各周波数のゲインを調整し、お好みの音質に設定できます。

6 ドライブ

本製品には、ご購入のモデルによってDVDスーパーマルチドライブ、DVD-ROM&CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブのいずれかが1台内蔵されています。
『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 CD／DVDについて

1 使用できるCD

【読み出しできるCD】

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
- フォトCD
- CD-ROM
- CDエクストラ
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできるCD】

＊DVDスーパーマルチドライブモデル、DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデルのみ

- CD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

DVDスーパーマルチドライブモデル

CD-Rメディア　：最大16倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア　：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア　：最大8倍速
Ultra Speed CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル

CD-Rメディア　：最大24倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア　：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア　：最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア　：最大24倍速

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカのCD-RW、CD-R を使用することを推奨します。
  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）
  ：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  CD-RW（Ultra Speed）＊DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ
  ：三菱化学メディア（株）
  CD-R：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、（株）リコー、
  日立マクセル（株）

  これらのメーカ以外のCD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow! Basic for TOSHIBA」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「DLA for TOSHIBA」でCD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法
  「7章 2 Q&A 集 その他 -Q. セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

2 使用できるDVD

【 読み出しできる DVD 】

＊ DVD スーパーマルチドライブモデル、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

●DVD-ROM　●DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
●DVD-RW　●DVD-R　●DVD-RAM
●DVD+R ＊ DVD スーパーマルチドライブモデルのみ
●DVD+RW ＊ DVD スーパーマルチドライブモデルのみ

【 書き込みできる DVD 】

DVD スーパーマルチドライブモデルでは、DVD に書き込むことができます。

お願い

本製品のドライブでは、書き込み８倍速以上のDVD-R、DVD+Rメディアと、書き換え４倍速以上のDVD-RW、DVD+RWメディアを使用することはできません。

- DVD-R
  書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
  DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
  DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
  DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクはDVDスーパーマルチドライブモデルでは書き込みできません。
　　また、DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデルでは使用できません。

お願い　DVDスーパーマルチドライブモデルの場合

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカのメディアを使用することを推奨します。

  DVD-RAM　：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
  DVD-RW　：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
  DVD-R　：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）
  DVD+RW　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  DVD+R　：三菱化学メディア　（株）、（株）リコー

  これらのメーカ以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow! Basic for TOSHIBA」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「DLA for TOSHIBA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。

- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法
「7 章 2 Q&A 集 その他 -Q. セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAM をドライブにセットしたとき、システムが DVD-RAM を認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R には「for Data」と「for Video」の２種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

3 DVD-Videoの再生について

＊ DVD スーパーマルチドライブモデル、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ

DVD-Video の再生を行うためのアプリケーションとして「InterVideo WinDVD」が用意されています。

初めて使用するときには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] からインストールしてください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。
  「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」のプロファイルを「DVD 再生」に設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
  再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- DVD-Video を再生する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに Clone 表示をしているとき DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

参照 表示装置の切り替え 「4 章 5-2 表示装置を切り替える」

詳しくは、「InterVideo WinDVD」の「Readme」に記載しています。
「Readme」をよく読んで使用してください。

4 CD／DVDへの書き込みについて

＊DVDスーパーマルチドライブモデル、DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデルのみ

CD／DVDに書き込みを行うために次のアプリケーションが用意されています。

- 「RecordNow! Basic for TOSHIBA」
  ここでは「RecordNow!」とよびます。
- 「DLA for TOSHIBA」
  ここでは「DLA」とよびます。

初めて使用するときには、[スタート]→[すべてのプログラム]→[アプリケーションの再インストール]からインストールしてください。

使用できるメディアと対応するアプリケーション

ご購入のモデルや使用するアプリケーションによって、使用できるメディアが異なります。

● DVDスーパーマルチドライブモデル

「RecordNow!」　：CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW
「DLA」　：CD-RW、DVD-RW、DVD+RW

DVD-RAMにデータを書き込む場合は、[マイコンピュータ]で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーしてください。

参照 DVD-RAMについて「本項5 DVD-RAMを使うときは」

● DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル

「RecordNow!」　：CD-R、CD-RW
「DLA」　：CD-RW

「RecordNow!」の使いかたについては、「RecordNow!」のヘルプをご覧ください。
「DLA」は、CD/DVDにデータを書き込むことができるパケットライトソフトです。[マイ コンピュータ]で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをCD/DVDに書き込むことができます。「DLA」でフォーマットしたメディアにのみ書き込むことができます。
「DLA」を使ったフォーマット、設定方法は、「DLA」のヘルプをご覧ください。

お願い CD/DVD に書き込む前に

本製品に添付の「RecordNow!」「DLA」以外の CD/DVD ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準の CD 書き込み機能や市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD/DVD に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。
書き込みに失敗した CD-R、DVD-R、DVD+R の損害については、当社は一切その責任を負いません。
また、記憶内容の変化・消失など、CD/DVD に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- CD/DVD に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 省電力機能について 「5 章 2 省電力の設定をする」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・モデムなどの通信アプリケーション　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い **書き込み／削除を行うにあたって**

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
  PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、テレビ、
  i.LINK（IEEE1394）対応機器＊ i.LINK 内蔵モデルのみ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

5 DVD-RAMを使うときは

＊ DVD スーパーマルチドライブモデルのみ

ここでは、DVD スーパーマルチドライブモデルで DVD-RAM に書き込みをする前に必要な操作について説明します。
DVD-RAM のドライバとフォーマットユーティリティとして、「DVD-RAM Driver Software」が用意されています。
初めて使用するときには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。

フォーマットとは

新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。
フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。
詳細は PDF マニュアルを確認してください。

【 PDF マニュアルを見る方法 】

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［DVD-RAM］→［DVD-RAM ドライバー］→［DVD-RAM ディスクの使い方］をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【 UDF2.0 】

-VRフォーマットに対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【 UDF1.5 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP／2000＊1がインストールされたパソコン＊2でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1　Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System日本語版
＊2　DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP／Me＊1／98＊2がインストールされたパソコン＊3でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1　Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System日本語版
＊2　Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System日本語版
＊3　DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

2 CD ／ DVD のセットと取り出し

ここでは、CD ／ DVD のセットと取り出しについて説明します。

⚠ 注 意

- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまで CD ／ DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。

お願い 操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD ／ DVD を取り出す操作をしないでください。CD ／ DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD ／ DVD のデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「本項 2 CD ／ DVD の取り出し」

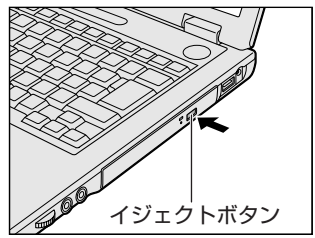
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブに CD ／ DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD ／ DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD ／ DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD ／ DVD を傷つけることがあります。

チェック

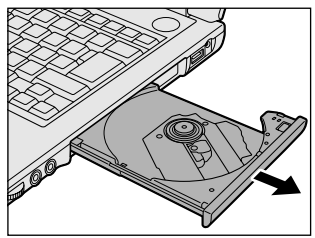
- 傷ついたり汚れのひどい CD ／ DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふき取ってから再生してください。
- CD ／ DVD の特性や CD ／ DVD への書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

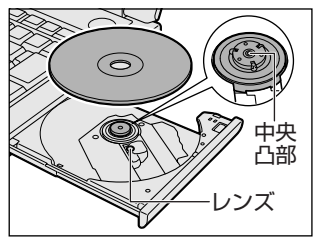
1 CD／DVDのセット

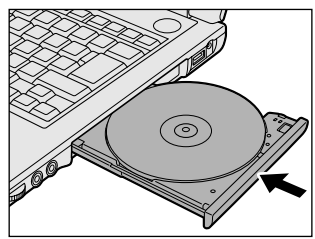
1 パソコン本体の電源を入れる

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※ご購入のモデルによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

2 CD／DVDの取り出し

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

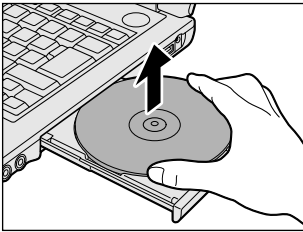
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

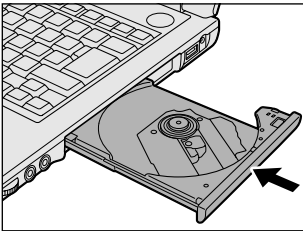
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

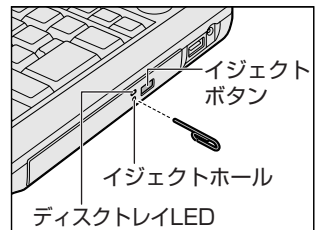
3 ディスクトレイを引き出す

CD ／ DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD ／ DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD ／ DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

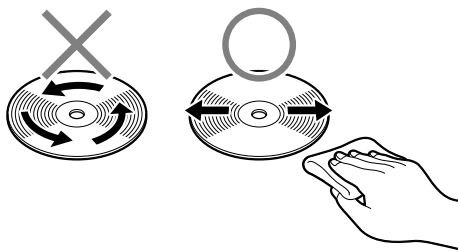
5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

【 ディスクトレイが出てこない場合 】

電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後

※ ご購入のモデルによってそれぞれの位置は異なります。

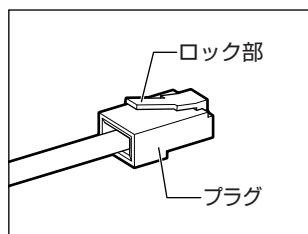
お願い CD ／ DVD の取り扱いと手入れ

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
  ボールペンなどの硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。
  円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにしてください。乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

7 LAN機能

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton AntiVirus」が用意されています。必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。
LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。プラグの差し込み部分に線が8本または4本ついているのが、LANケーブルです。
ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート センター』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

お願い **LANケーブルの使用にあたって**

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

＊無線LANモデルのみ

無線LANモデルには、無線LANモジュールが内蔵されています。
無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、パソコンから無線LANネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品にはIEEE802.11gおよびIEEE802.11bに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）＊1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）＊1
- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能（WEP128bit,WPA）

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【 無線 LAN の種類 】

無線 LAN は、IEEE802.11g、IEEE802.11b に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11b では「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線 LAN は、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

  ID やパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報

  メールの内容

  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

  個人情報や機密情報を取り出す（機密漏洩）

  特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

  傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

  コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い **暗号化**

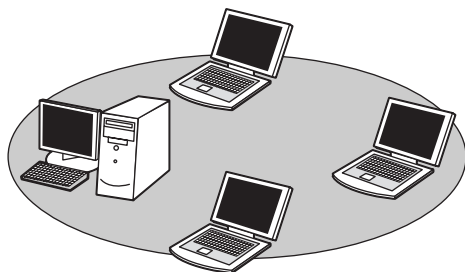
WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめします。

お願い **無線LANを使用するにあたって**

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 4-6 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

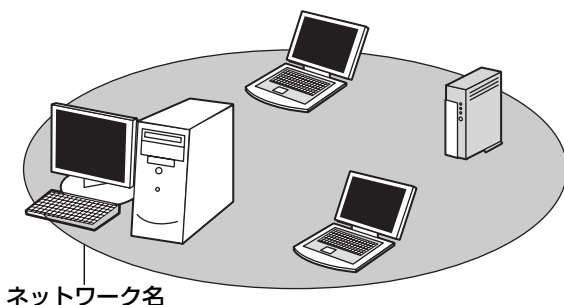
2 無線LANネットワークの種類

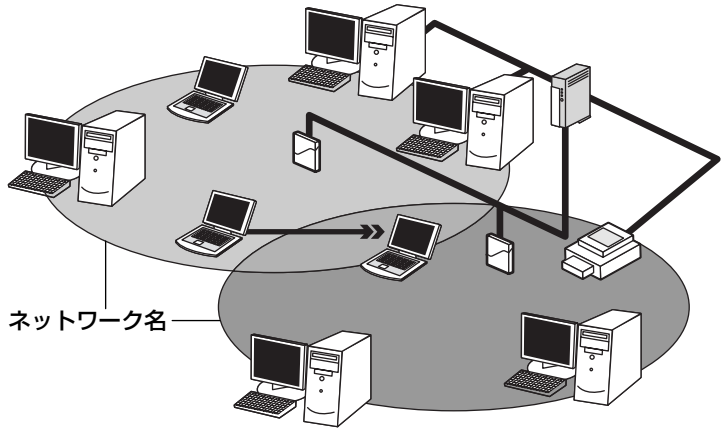
アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。
このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような［ファイルとプリンタの共有］などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してバックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

【 スタンドアロンネットワーク 】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。

【 インフラストラクチャネットワーク 】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。

どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。
詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 基本設定

Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。システムが標準で提供する方法に従って設定してください。詳しくは『ヘルプとサポート センター』をご覧ください。
無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックする

3 [ワイヤレスネットワークセットアップウィザード] をクリックする

[ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

4 ネットワークの表示

無線ネットワークで複数の無線 LAN ステーションが稼動している場合は、次の手順で他のコンピュータを表示できます。詳しくは『ヘルプとサポート センター』をご覧ください。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

2 [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどが表示されます。

メモ

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作しますが、インフラストラクチャネットワークに接続している場合は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]画面で詳細設定をすることもできます。

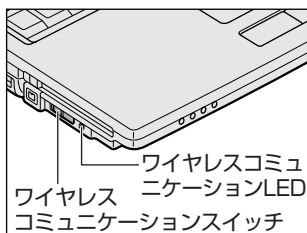
① [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
② [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
③ [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする
[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。設定を変更した後、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

5 無線LANを使う

⚠ 警 告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

無線LAN機能の起動方法

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション (📶) LEDが点灯します。
無線LAN機能が起動します。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣の無線LANデバイスを検索し、架空のマップ上に表示します。＊1
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線LANケーブルが抜かれたときに、自動で無線LANに切り替えます。＊1
- 無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。＊1
- 近隣で使われている無線LANデバイスのSSIDを検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。＊1

など

＊1 無線LANモデルの場合やPCカードタイプなどの無線LAN機器を接続した場合のみ使用できます。

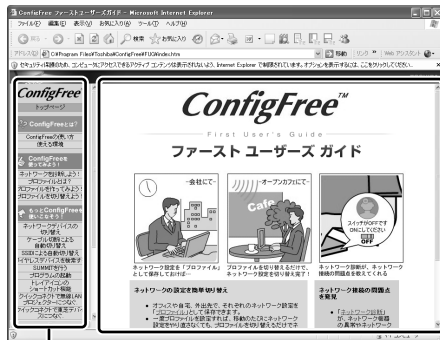
他にも便利な機能が色々用意されています。
詳細については『ファーストユーザーズガイド』をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする

『ファーストユーザーズガイド』が表示されます。

左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。

「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windowsを起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面が表示されます。
［タスクトレイに常駐する］をチェックすると、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、［次回から表示しない］をチェックし、［閉じる］ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、『ファーストユーザーズガイド』またはヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の［ヘルプ］ボタンをクリックする

［ConfigFree ヘルプ］画面が表示されます。

8 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、市販のモジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い **内蔵モデムの操作にあたって**

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

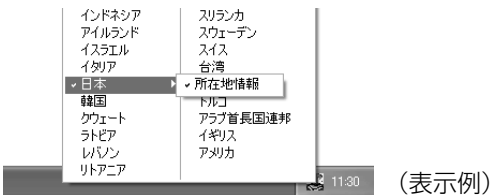
本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 3 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

1 設定方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

2 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

［地域名を選択した場合］

［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

1 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【 設定 】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイアルのプロパティ 】

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

４章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。
周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- モデム（本製品では内蔵）
- フロッピーディスクドライブ
- デジタルカメラ
- 増設メモリ＊1

＊1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 8 メモリを増設する」をご覧ください。

参照 周辺機器の接続場所「3 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

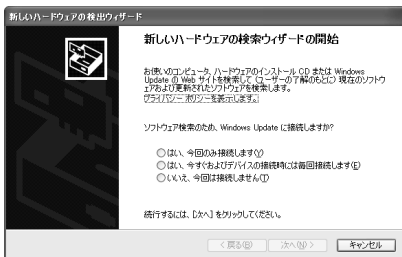
1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合 】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。
周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。
［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】

［ハードウェアの追加ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

［ハードウェアの追加ウィザード］は、次のように起動します。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせたPC（ピーシー）カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI（スカジー）カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1 PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE Ⅱ対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

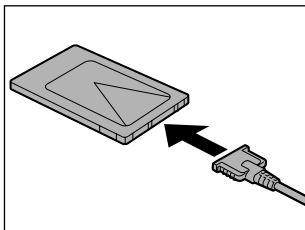
お願い

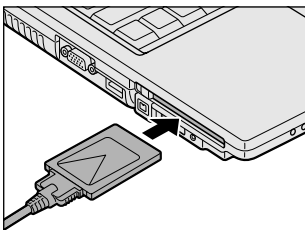
- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

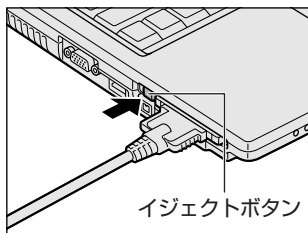
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

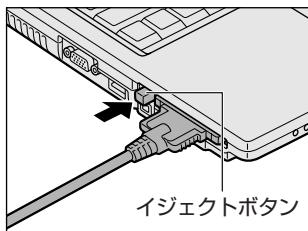
1 PCカードの使用を停止する

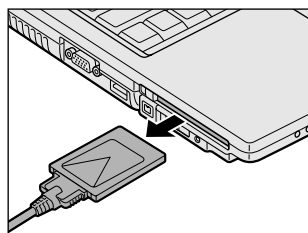
① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう 1 度イジェクトボタンを押してください。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

3 USB対応機器を接続する

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USB対応ターミナルアダプタ　など

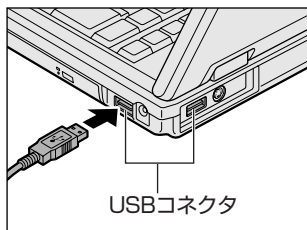
本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

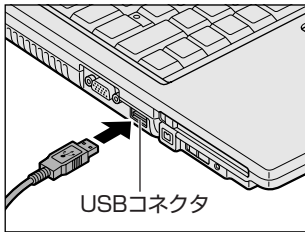
お願い　操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

【右側面／背面】

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【 左側面 】

2 **USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む**

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 **USB 対応機器の使用を停止する**

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす USB 対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

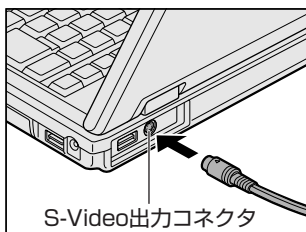
2 **パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く**

4 テレビを接続する

本製品のS-Video（エスビデオ）出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にデスクトップ画面を表示させることができます。
接続するS端子ケーブルは、4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む

2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS1/S2映像入力端子に差し込む

テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間

メモ

テレビに表示する場合は、1024×768ドット以下の解像度でご覧ください。

【 方法 1 ー［画面のプロパティ］で設定する 】

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

2 ［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

3 ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

4 ［Intel(R) Extreme Graphics 2 for Mobile］タブで［グラフィックのプロパティ］ボタンをクリックする

5 ［デバイス］タブで表示する装置を選択する

✓ がついているアイコンが現在の表示装置です。
変更するときは画面左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
  ［ノートブック］アイコンをクリックしてください。
- テレビだけに表示
  ［テレビ］アイコンをクリックしてください。
  「ビデオ標準」では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。
  ・NTSC-M（米国仕様の TV 受信機）
  ・NTSC-J（日本仕様の TV 受信機）
  ・PAL-B（ヨーロッパ仕様の TV 受信機）
- 外部ディスプレイだけに表示
  ［PC モニタ］アイコンをクリックしてください。
- Clone 表示（クローン表示）
  2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
  ①［Intel(R) Dual Display Clone］アイコンをクリックする

②表示に合わせた設定をする

項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでClone表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビでClone表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、［画面のプロパティ］から拡張表示を設定できません。
Ctrl＋Alt＋F12キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

①［拡張デスクトップ］アイコンをクリックする
［拡張デスクトップ］アイコンが表示されていない場合は、▼ボタンをクリックしてください。

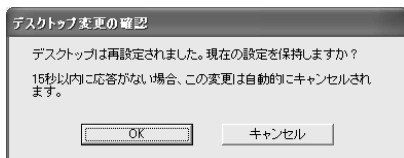
②表示に合わせた設定をする

項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

メモ

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをClone表示（クローン表示）または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。設定は、Clone表示（クローン表示）または拡張表示に設定したあと、［デバイス］タブの［デバイス設定］ボタンをクリックし、表示される画面で行います。

6 ［OK］ボタンをクリックする

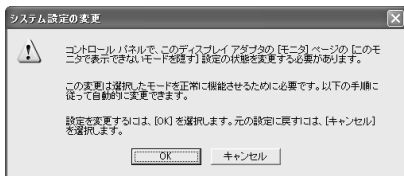
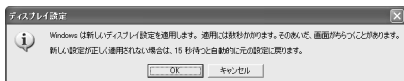
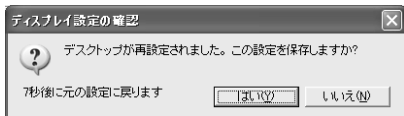
次の画面が表示されます。

7 ［OK］ボタンをクリックする

8 ［OK］ボタンをクリックする

9 ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

【 メッセージについて 】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

● ［システム設定の変更］画面

● ［ディスプレイ設定］画面

● ［ディスプレイ設定の確認］画面

【 方法２－Fn＋F5キーを使う 】

Fnキーを押したままF5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。Fnキーを押したままF5キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、Fnキーを離すと表示装置が切り替わります。

● 表示装置を LCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置が LCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置を LCD に戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、Fn＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、Fn＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

- LCD .... 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT ...... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD ／ TV .... 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV .... テレビだけに表示
  テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

「方法 1」で［拡張表示］に設定した場合は、Fn＋F5キーで表示装置を切り替えられません。「方法 1」の手順で表示装置を切り替えてください。また、複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windows のログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、Fn＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え『ヘルプとサポート センター』

3 取りはずし

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

1 パソコン本体とテレビに差し込んである S 端子ケーブルを抜く

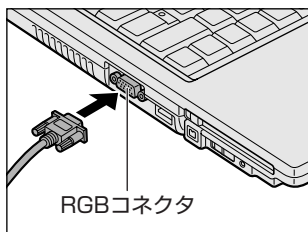
5 外部ディスプレイを接続する

RGB（アールジービー）コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

> メモ
>
> 使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

1 接続

外部ディスプレイとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む

外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。
外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切った後、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

【 切り替え方法 】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を確認してください。

参照 テレビ接続について「本章 4-2 テレビに表示する」

メモ

外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ビデオモードについて「付録 1-1 サポートしているビデオモード」

6 i.LINK（IEEE1394）対応機器を接続する

＊ i.LINK 内蔵モデルのみ

アイリンク アイトリプルイーイチサンキュウヨン
i.LINK（IEEE1394）コネクタ（i.LINK コネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK 対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ

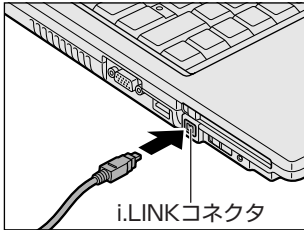
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い **操作にあたって**

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

7 その他の機器を接続する

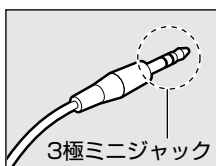
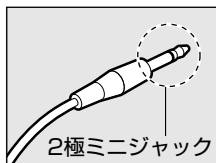
本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 マイクロホン

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

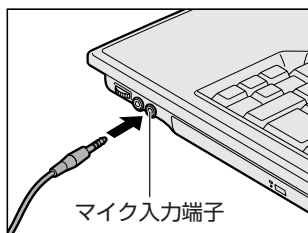
参照 サウンド機能について「3 章 5 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。

3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。
ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

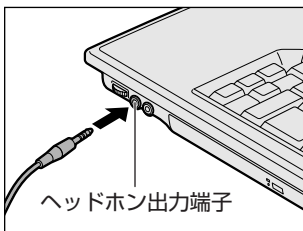
次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。
① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があります。
ご購入のモデルによって、あらかじめ取り付けられているメモリの容量が異なります。
取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて、Pentiumモデルの場合は最大2GBまで、Celeronモデルの場合は最大1GBまでです。
Celeronモデルの場合、別売りの増設メモリ1GB（タイプ1）：PAME1001を取り付けるときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取りはずしてください。

警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注 意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。
仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビープ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ピー、ピッ、ピッ、ピッ	Celeronモデルの場合に、合計で1GB＋128MB以上のメモリが取り付けられている。
ピー、ピッ	スロットAに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、ピッ	スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、無音、ピー、ピッ、ピッ	スロットA、スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD非対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD非対応）が取り付けられています。

お願い **静電気について**

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

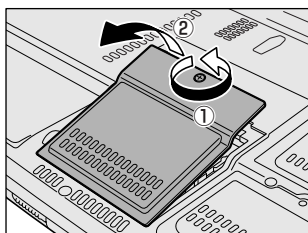
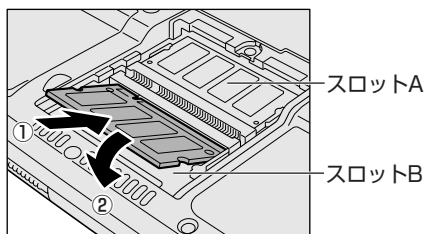
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた「2 章 2 電源を切る」

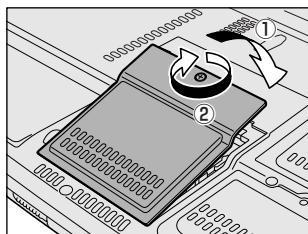
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし
「5 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②

5 **増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②**

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 **増設メモリカバーをつけて①、手順４でゆるめたネジ１本をとめる②**

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 **バッテリパックを取り付ける**

参照 バッテリパックの取り付け
「5 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

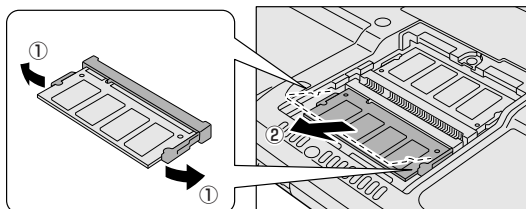
参照 電源の切りかた「2 章 2 電源を切る」

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし
「5 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け
「5 章 1- ❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC 診断ツール］をクリックする
② ［基本情報］タブで［メモリ］の数値を確認する

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、［基本情報］タブで表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1 バッテリについて

本製品には、次のいずれかのバッテリパックが取り付け済み、または同梱されています。
バッテリパックの種類、ご購入時の状態は、ご購入のモデルによって異なります。

- バッテリパック（2,200mAh）
- バッテリパック（4,700mAh）
- 大容量バッテリパック（8,800mAh）

ご購入時の状態で、バッテリパックが取り付けられていないモデルの場合、本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを取り付けて、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危 険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（バッテリパック（2,200mAh）：PABAS048 またはバッテリパック（4,700mAh）：PABAS054 または大容量バッテリパック（8,800mAh）：PABAS050）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

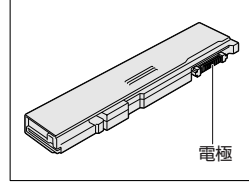
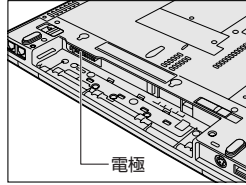
⚠ 警 告

- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注 意

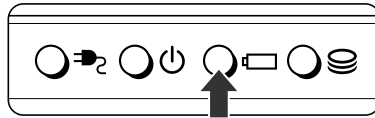
- バッテリパックの充電温度範囲内（5 ～ 35℃）で充電してください。
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

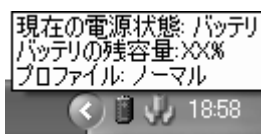
ACアダプタを使用している場合、Battery ▭ LEDが点灯します。

Battery ▭ LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店またはお近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。

参照 バッテリの充電について「本節 ❷ バッテリを充電する」

2 通知領域の［東芝省電力］アイコンで確認する

通知領域の［東芝省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery ▭ LEDや［東芝省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について「本節 ❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power LED が緑色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

② バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは５～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードの電源プラグをコンセントに差し込むと、パソコン本体の電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

詳細は、別紙の『dynabook Satellite T11 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使用できる時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『dynabook Satellite T11 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 バッテリ駆動時の処理速度 】
高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するためにAC アダプタを接続してご使用ください。

【 使っていないときの充電保持時間 】
パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite T11 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- AC アダプタをパソコン本体に接続したままでパソコンを８時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもAC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に1度は、AC アダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
  その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からAC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる
電源が入らない場合は手順４へ進んでください。

3 ５分程度バッテリ駆動を行う
この間、Battery LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにAC アダプタを接続し、手順４へ進みます。

4 パソコン本体にAC アダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントにつなぐ
DC IN LED が緑色に点灯してBattery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が緑色になるまで充電する
バッテリの充電中はBattery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 「2 章 3-❷ 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  参照 「2 章 3-❸ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルに設定する 参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックの取り付け／取りはずし

バッテリパックの取り付け／取りはずし方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

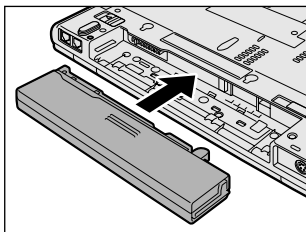
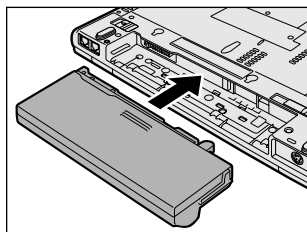
1 初めて取り付けるとき

ご購入時の状態で、バッテリパックが取り付けられていないモデルの場合、本製品を初めて使用するときは、次の手順でバッテリパックを取り付けてください。
AC アダプタと電源コードはまだ接続しないでください。

1 ディスプレイが閉じている状態で、パソコン本体を裏返す

2 同梱のバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む

バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。

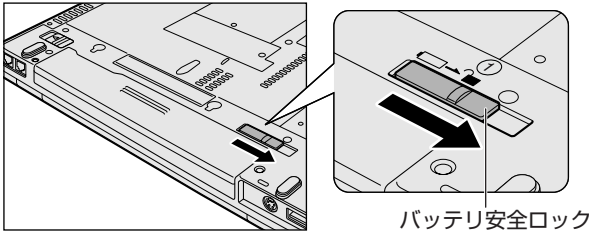
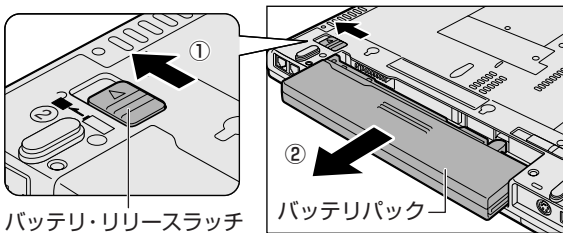
【 バッテリパック 】

【 大容量バッテリパック 】

2 取りはずし／取り付け

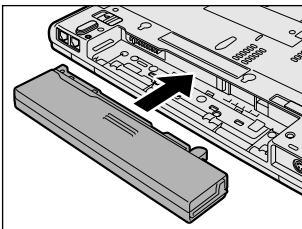
1 **データを保存し、Windows を終了させて電源を切る**

2 **パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす**

3 **ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す**

4 **バッテリ安全ロックを矢印の方向にスライドする**

ロックが解除され、バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

5 **バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②**

6 **交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む**

バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

2 ［ 東芝省電力］をクリックする

［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

ヘルプの該当するページが表示されます。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1　システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝 HW セットアップ」の［パスワード］タブ 参照 「本章 4- ❶ ユーザパスワード」
	スーパーバイザパスワード	「スーパーバイザパスワードユーティリティ」 参照 「本章 4- ❷ スーパーバイザパスワード」
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 「5 章 2 省電力の設定をする」

ユーザパスワードでキーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップは、BIOS セットアップと連動して Windows 上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝 HW セットアップ］をクリックする

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 ［東芝 HW セットアップ］を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが ? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、Enter キーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 Escキーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑、↓、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SpaceまたはBackSpace
画面を切り替える	Fn＋↓またはFn＋↑ 本製品では、Fn＋↓がPgDnキー、Fn＋↑がPgUpキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	Fn＋← 本製品では、Fn＋←がHomeキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD　●Hard Disk Mode

2 BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。

＊ 1 Pentium モデルのみ表示されます。
＊ 2 Panel Power On/Off は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

＊ 3 PC カードタイプのハードディスクからシステムを起動させた場合のみ表示されます。

（注）画面は標準設定値の表示例です。

設定項目の詳細について 「本節 ❸ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません(参照のみ)。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORYーメモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIMEー日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERYーバッテリで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power(標準値)	●User Setting(設定例)	●Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright	LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off(システム自動停止時間)は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。
また LCD Brightness は、AC アダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- Processing Speed
  処理速度を設定します。
  使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
  ・High.......................... 処理速度を高速に設定する
  ・Low........................... 処理速度を低速に設定する

- CPU Sleep Mode
  CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
  一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
  ・Enabled .... 電力消費を低減する
  ・Disabled .... 電力消費を低減しない

- Display Auto Off（表示自動停止時間）
  時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。
  画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。
  画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。
  ・Disabled .... 自動停止機能を使用しない
  自動停止時間の設定は「01Min.」〜「30Min.」から選択します。

- HDD Auto Off（HDD 自動停止時間）
  設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
  自動停止時間の設定は「01Min.」〜「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- System Auto Off（システム自動停止時間）
  時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。
  「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
  ・Disabled .... 自動停止機能を使用しない
  自動停止時間の設定は「10Min.」〜「60Min.」から選択します。

● LCD Brightness（LCD輝度）
画面の明るさを選択します。
・Semi-Bright .... 低輝度に設定する
・Super-Bright .... 最高輝度に設定する
・Bright .... 高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU熱制御方式）
CPUの熱を冷ます方式を選択します。
CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。
・Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
・Performance .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
・Battery Optimized .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却します。［Performance］より消費電力は少なくなります。

4 PASSWORDーユーザパスワードの登録／削除をする

ユーザパスワードの登録や削除は「東芝HWセットアップ」で行うことを推奨します。キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOSセットアップで登録してください。

参照 ユーザパスワードの設定方法「本章4-❶ユーザパスワード」

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】
ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】
ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

5 BOOT PRIORITYーブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD→FDD→CD-ROM→LAN」に設定してください。

・HDD→FDD→CD-ROM→LAN（標準値）
・FDD→HDD→CD-ROM→LAN
・HDD→CD-ROM→LAN→FDD
・FDD→CD-ROM→LAN→HDD
・CD-ROM→LAN→HDD→FDD
・CD-ROM→LAN→FDD→HDD

（FDD→HDD→CD-ROM→LAN から CD-ROM→LAN→FDD→HDD まで：指定のドライブ順に起動する）

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。
通常は「Built-in HDD → PC Card」に設定してください。

・Built-in HDD → PC Card（標準値）
・PC Card → Built-in HDD

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

・PXE（標準値）.......... PXE プロトコルに設定する
・RPL .... RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAYー表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）.. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
・LCD ＋ AnalogRGB .... 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD ＋ Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows の起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、本体液晶ディスプレイに表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

Pentium モデルのみ表示されます 。
本体液晶ディスプレイの表示機能を選択します。

- Disabled .... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- Enabled（標準値）... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- NTSC（JAPAN）（標準値）.. 日本仕様の TV 受信機
- PAL .... ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- NTSC（US）...................... 米国仕様の TV 受信機

7 OTHERSーその他の設定をする

【 Power-up Mode（レジューム機能）】

レジューム機能を設定します。

- Boot（標準値）......... レジューム機能を無効にする
- Resume .... レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache（キャッシュ）】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- Enabled（標準値）... キャッシュメモリを使用する
- Disabled .... キャッシュメモリを使用しない

【 Level 2 Cache 】

2 次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は表示されません。

- Enabled（標準値）... 2 次キャッシュを使用する
- Disabled .... 2 次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

Pentium モデルのみ表示されます。

・Dynamically Switchable（標準値）.. CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替えます。

・Always High .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。

・Always Low .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

【 Auto Power On（タイマ・オン機能）】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows のタスクスケジューラを使用してください。

・Disabled（標準値）... タイマ・オン機能が設定されていない

・Enabled .... タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定「本章 4 パスワードセキュリティ」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は Space または BackSpace キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは ↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled .... 時間を設定しない

● Alarm Date Option
自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
・Disabled .... 月日を設定しない

● Ring Indicator
電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できません。
・Disabled（標準値）... リングインジケータ機能を使用しない
・Enabled .... リングインジケータ機能を使用する

【 Panel Power On/Off（パネルスイッチ機能）】
ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。
・Enabled .... パネルスイッチ機能を使用する
・Disabled（標準値）... パネルスイッチ機能を使用しない

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】
ブート時にBIOSが初期化する装置を指定します。
・Setup by OS（標準値）... OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置はOSが初期化します。
この場合、「PCカード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
・All Devices........................ すべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内のController Modeの設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

9 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。
内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。
システムを起動できる PC カードのタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCI バスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

- Auto-Selected（標準値）... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- PCIC Compatible .... Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。
- CardBus/16-bit .... Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL－HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

・Enabled（標準値）............. 使用する
・Disabled .... 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

・Enhanced IDE（Normal）（標準値）.... 通常はこちらを選択する
・Standard IDE .... Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／ USB マウスが使用できます。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

［USB-FDD Legacy Emulation］が［Enabled］に設定されていても、「BOOT PRIORITY」の［Boot Priority］が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

参照 「BOOT PRIORITY」について「本項 5 BOOT PRIORITY」

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵LANの機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）... 有効にする
・Disabled .... 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の2種類があります。

- Windowsのログオンパスワード
  Windowsにログオンするとき
  インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能
「3章2-❷- Fn キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
  電源を入れたときや休止状態から復帰するとき

ここでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードの設定方法について説明します。
ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 ユーザパスワード「本節 ❶ ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。
スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOSセットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 スーパーバイザパスワード「本節 ❷ スーパーバイザパスワード」

メモ

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

お願い

パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- ! @ < > ; : , . （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、 日本語入力システムが供給する記号 など ・記号の一部（半角） 【例】｜（バーチカルライン）、_（アンダーバー）、 ￥（エン）など	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。
メッセージの内容に従って、もう 1 度パスワードを入力してください。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの設定は、「東芝 HW セットアップ」を使用することをおすすめします。キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

1 ユーザパスワードの登録

東芝 HW セットアップでの登録

1 「東芝 HW セットアップ」を起動する

2 ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］をチェックする

ユーザパスワードが登録されている場合は、［登録］にチェックがついています。その場合は、ユーザパスワードを削除してから登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除「本項 2 ユーザパスワードの削除」

3 [ユーザパスワード]画面の[パスワードの入力]にパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする

パスワードは10文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節-パスワードとして使用できる文字」

4 [パスワードの確認]画面の[パスワードの確認]に同じパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする

5 表示されるメッセージを確認し、[OK]ボタンをクリックする

BIOSセットアップでの登録

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DD(720KB)または2HD(1.44MB)フロッピーディスクと、USBフロッピーディスクドライブ(別売り)が必要です。あらかじめ用意してください。
キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除方法「本項2 ユーザパスワードの削除」

3 ユーザパスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節-パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 Enterキーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 Enterキーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 ユーザパスワードの設定が終了したら、Fn+→キーを押す

本製品では、Fn+→がEndキーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

```
Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.
```

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットしてYキーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずにYキーを押します。
BIOSセットアップの画面に戻るにはNキーを押します。
手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

参照 キーフロッピーディスクの使いかた
「本項 4 ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

```
Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)
```

① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は1キーを、2DDの場合は2キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the password service disk, then press any key.
```

② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

2 ユーザパスワードの削除

東芝HWセットアップでの削除

1 「東芝HWセットアップ」を起動する

2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする

3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

手順3でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

BIOSセットアップでの削除

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

パスワードが削除されます
手順3で入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。
手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

3 ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

参照 ユーザパスワードの削除と登録について
「本項 2 ユーザパスワードの削除」、「本項 1 ユーザパスワードの登録」

4 ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、Enterキーを押す

ユーザパスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Set Password Again ? (Y/N)
```

2 ユーザパスワードを再登録する場合は、Yキーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 1- BIOS セットアップでの登録」の手順 2 以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

ユーザパスワードを再登録しない場合は、Nキーを押す

次のメッセージが表示されます。

```
Remove the Disk,then press any key.
```

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

② スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

起動方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.EXE」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする

詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

メモ

(F12)キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「スーパーバイザパスワードユーティリティ」の [ユーザパスワードモード] で「HW セットアップの起動許可」のチェックをはずさないでください。「HW セットアップの起動禁止」をチェックしていると、(F12)キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 (F12)キーで起動ドライブを変更する
「2 章 1-3 起動するドライブを変更する場合」

「README.HTM」の起動方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする

③ パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、パソコン本体の電源を入れると「Password=」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを登録したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

起動時にパスワードを入力する場合

休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。
また、スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1　トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！今までとは違う動きをする！なんだか変！不安だ！
そんなときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

パソコンの状態を確認してください。

- 電源は入りますか？
- 画面は表示されますか？
- タッチパッド／マウス、キーボードは操作できますか？

オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見ることができます。
また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

本章の「2 Q&A集」で調べてください。

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。

「dynabook.com」のサポートで調べてください。

インターネットに接続してホームページ「dynabook.com」のサポート情報で調べてください。
「よくあるご質問（FAQ）」やメールで質問する「東芝PCオンライン」、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows関連情報を提供しています。

参照 詳細について
「本節 ❶ dynabook.comで調べる」

各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

「9章 6 問い合わせ先」を確認してください。

各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

『周辺機器に付属の説明書』を確認してください。

パソコン本体のトラブル

「東芝PCダイヤル」に問い合わせてください。

「付録 5-❶-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認してから、電話で問い合わせてください。

dynabookの故障や修理など、サポート情報については、同梱の『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

1 dynabook.comで調べる

インターネットのホームページ「dynabook.com」では、dynabookの最新情報や技術情報、活用術などを提供しています。dynabookについて知りたいときは、このホームページで情報を探してください。

URL http://dynabook.com/

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［インターネット］をクリックする

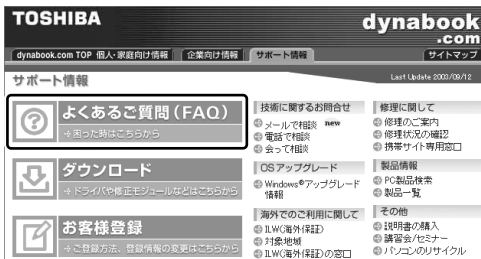
Internet Explorerが起動します。

購入時の状態では、起動して最初にdynabookのサポート情報のページが表示されるように設定されています。

「dynabook.com」のトップページ（http://dynabook.com/）からは、［サポート情報］タブをクリックすると、dynabookのサポート情報のページが表示されます。

【 パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問（FAQ）」 】

URL http://dynabook.com/assistpc/faq/index_j.htm

dynabookのサポート情報のページからは、［よくあるご質問］をクリックすると表示されます。

日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。
キーワードでも、普通の文章でも入力して、検索できます。

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【 メールで質問する「東芝PCオンライン」 】

「よくあるご質問（FAQ)」を探しても問題が解決できないときは、専門フォームからお問い合わせください。24 時間 365 日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしておいてください。

参照 「9 章 4-❶ 東芝 ID（TID）お客様登録のおすすめ」

1 「よくあるご質問（FAQ)」で解消方法を探す

2 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。「1」「2」の項目を選択すると、メールでのお問い合わせはできません。

3 ［送信］ボタンをクリックする

PC オンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝 PC オンライン」をクリックする

画面の指示に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。

質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。

この他、OS ／アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。OS ／アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて「9 章 6 問い合わせ先」

2 トラブル解消に役立つ操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。
ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。
コントロールパネルの開きかたを説明します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 Q&A集

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power ⏻ LEDが緑色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery LEDがオレンジ色に点滅している場合）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「5章 1-❷ バッテリを充電する」

（DC IN LEDがオレンジ色に点滅している場合）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックやACアダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
「5章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

参照 ACアダプタの接続
「1章 1-❶ 電源コードとACアダプタを接続する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A **ドライブやフロッピーディスクドライブが起動ドライブとして設定されている場合は、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。**
CD ／ DVD やフロッピーディスクを取り出すか、システムが入ってるものと取り換えてから、何かキーを押してください。

A **システムの入ってないドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。**
ドライブやフロッピーディスクドライブから CD ／ DVD やフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。
強制終了の方法は「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q.［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない」をご覧ください。
強制終了した後、F12キーを押しながら電源スイッチを押してください。
表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を←→キーで選択し、Enterキーを押すと、システムが起動します。

参照 起動ドライブについて「2 章 1-3 起動するドライブを変更する場合」

A **F8キーを押しながら電源スイッチを押すと、正常な状態で起動しなおすことができます。**

Q 自動的に電源が入ってしまう

A **Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。**
タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。
次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
③ ［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリック→[東芝省電力]をクリックする

② [アクション設定]タブの[コンピュータを閉じたとき]で[何もしない]を選択する

③ [OK]ボタンをクリックする

Q [シャットダウン]や[終了オプション]から電源が切れない

A Ctrl+Alt+Delキーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

① Ctrl+Alt+Delキーを押す
[Windowsのセキュリティ]画面が表示されます。

② [シャットダウン]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt+Sキーを押してください。

③ [シャットダウン]を選択し、[OK]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで[シャットダウン]を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

● ドメイン参加していない場合

① Ctrl+Alt+Delキーを押す
[Windowsタスクマネージャ]画面が表示されます。

② メニューバーの[シャットダウン]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt+Uキーを押してください。

③ [コンピュータの電源を切る]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A Ctrl+Alt+Delキーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、購入店、または保守サービスに相談してください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power ⏻ LEDが点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。CRTディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power ⏻ LEDがオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

③ ［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンが処理をしている最中（Disk LEDが点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックについて「本節 その他 -Q. セーフモードで起動した」

Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］は、設定されているプログラムをWindows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。

次の手順でプログラムを削除できます。

① ［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［開く］をクリックする

② ［プログラム］アイコンをダブルクリックする

③ ［スタートアップ］アイコンをダブルクリックする
［スタートアップ］画面が表示されます。

④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを削除する］をクリックする
［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。

⑤ ［はい］ボタンをクリックする

⑥ ［スタートアップ］画面の［閉じる］ボタンをクリックする

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。

③ ［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

Q パソコンが休止状態にならない

A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

A ［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき
 - Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

A 休止状態の設定になっていない可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［電源オプション］をクリックする
［電源オプションのプロパティ］画面が表示されます。

② ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする

③ ［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について「2 章 3-❷ 休止状態」

Q F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブを変更できない

A スーパーバイザパスワードユーティリティで「HW セットアップの起動禁止」が設定されている可能性があります。

スーパーバイザパスワードユーティリティの［ユーザパスワードモード］で「HW セットアップの起動禁止」をチェックしていると、F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。「HW セットアップの起動許可」をチェックしてください。

参照 スーパーバイザパスワード 「6 章 4-❷ スーパーバイザパスワード」

【画面／表示】

Q 画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。

電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が緑色に点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

次の操作を行ってください。

① Shiftキーや Ctrlキーを押すか、タッチパッドを操作する
ユーザ名選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。

② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す

参照 インスタントセキュリティ機能について
「3 章 2-❷- Fnキーを使った特殊機能キー」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

Fn＋F5キーを 3 秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4 章 4 テレビを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A Fn＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。

逆に、Fn＋F6キーを押すと、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
Fnキーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

③ ［基本設定］タブで［画面の明るさ］を設定する
［設定］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。
［解除］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとの設定は無効になります。

④ ［OK］ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、本体液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。消耗品となります。

Q 画面の表示や色がはっきりしない

A 画面の解像度をパソコン本体のディスプレイサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［画面］をクリックする

② ［設定］タブで設定を変更する

- 表示がはっきりしない場合
 ［画面の解像度］をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
 ［画面の色］を［最高（32 ビット）］に設定してください。

③ ［OK］ボタンをクリックする

参照 ディスプレイの解像度について「3 章 4 ディスプレイ」

Q CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。
パソコンと電気製品との距離を離してください。

Q 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを、拡張表示またはClone 表示（クローン表示）に設定しているとき、外部ディスプレイにノイズが表示される

A 外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてください。
設定方法については、「4 章 4-2 テレビに表示する」を参照してください。

Q テレビ表示／本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示に設定できない

A テレビ表示や本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示中に、次のような状態になることがあります。

- スタンバイまたは休止状態になったとき、Fn＋F5キーを押して本体液晶ディスプレイへ表示装置を変更すると、その後Fn＋F5キーを押してテレビ表示または本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示に設定できない

このようなときは、次の方法で設定してください。

① Ctrl+Alt+F12キーを押す
 ［Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controllerのプロパティ］画面が表示されます。

② ［デバイス］タブ左側のイラストアイコンで、表示装置を切り替える

Q ［画面のプロパティ］で画面の解像度または画面の色を、「1280 × 1024 ピクセル」以上の、「最高(32 ビット)」モードに設定できない

A ［画面のプロパティ］の［画面の解像度］で本体液晶ディスプレイの解像度を「1600 × 1200 ピクセル」以上に設定し、［画面の色］で「最高（32 ビット)」を選択すると、このような状態になることがあります。

このようなときは［画面のプロパティ］で次のように設定してから、目的の解像度や色に設定してください。

① ［画面の解像度］で「1024 × 768 ピクセル」を選択する

② ［適用］ボタンをクリックする

Q 常に外部ディスプレイに表示したい

A 出荷時の状態では、パソコンの電源を入れたとき、または休止状態から復帰したときに、デスクトップ画面は、前回使用していた表示装置が存在している場合はその表示装置に表示されます。

これを、前回使用していた表示装置が本体液晶ディスプレイであっても、パソコンの電源を入れたとき、または休止状態から復帰したときに、外部ディスプレイが接続されていれば、常に外部ディスプレイに表示するようにできます。

次の手順で「TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor」をインストールしたあと、パソコンを再起動してください。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

② ［セットアップ画面へ］をクリックする

③ ［東芝ユーティリティ］タブで［東芝ユーティリティ］をクリックする

④ ［TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor のセットアップ］をクリックする

⑤ 表示されるメッセージに従ってインストールを行う
［ファイルのダウンロード］画面上で［実行］を選択してください。

【Windows】

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリック→［日付と時刻を変更する］をクリックする

② ［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。

③ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う

④ ［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。

パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。

保守サービスに連絡してください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力」の設定で、バッテリ残量に応じて CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。

また、ご購入時の状態のプロファイルは、AC アダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

③ ［CPU の処理速度］をスライダーバーで設定する
数字が大きいほど、高速で処理します。
Pentium モデルでは、先に［基本設定］タブの［CPU の制御方法］で［自動］または［固定］をチェックしてください。

④ ［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力モードについて「5 章 2 省電力の設定をする」

A パソコンのCPUが高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。

しばらく作業を中止すると、CPUの温度が下がり処理速度が元に戻ります。

CPUが高温になった場合の対処方法については「東芝省電力」で設定できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③ ［基本設定］タブの［CPUの熱制御方法］をスライダーバーで設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする

「東芝省電力」で設定していても、パソコン使用中のCPUの過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコン本体を放置してから使用してください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。

定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。

不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

【バッテリ駆動で使用するとき】

Q Battery LEDが点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。

また、データはこまめに保存しておいてください。

参照 バッテリの充電方法「5章 1-❷ バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery ▭ LEDがオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう1度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリを再充電してみてください。

参照 再充電について「5章 1-❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について「5章 1-❶ バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③ ［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

【キーボード】

Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。
［\ ろ］を押すと¥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

Q ひらがなや漢字の入力ができない

A 日本語入力システムの入力モードが対応していない状態になっています。
［半/全］キーを押して入力モードを切り替えてください。

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

Shift＋CapsLock 英数キー	大文字ロック状態
Alt＋カタカナひらがなキー	ローマ字入力／カナ入力
Fn＋F10キー	アロー状態
Fn＋F11キー	数字ロック状態

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。
次の手順でドライバを再設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［システム］をクリックする
［システムのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。

④ ［キーボード］をダブルクリックする

⑤ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。

⑥ ［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［ハードウェアの更新ウィザード］画面が表示されます。

⑦ ［いいえ、今回は接続しません］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

⑧ ［一覧または特定の場所からインストールする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

⑨ ［検索しないで、インストールするドライバを選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

⑩ ［互換性のあるハードウェアを表示］のチェックをはずす
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。

⑪ ［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語 PS/2 キーボード（106／109 キー Ctrl ＋英数)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［ドライバの更新警告］画面が表示されます。

⑫ ［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。

⑬ ［完了］ボタンをクリックする

⑭ キーボードのプロパティ画面で［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

⑮［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A ［スタート］メニューから再起動してください。

A ［スタート］メニューから再起動できない場合は、Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。
しばらくしてから電源を入れ直してください。
強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックについて「本節 その他 - Q. セーフモードで起動した」

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

【タッチパッド】

Q タッチパッドを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 詳細について「3 章 3-❹ タッチパッドを無効／有効にするには」

【CD ／ DVD】

Q CD ／ DVD にアクセスできない

A ディスクトレイがきちんとしまっていない場合は、カチッと音がするまで押し込んでください。

参照 CD ／ DVD のセット「3 章 6-❷-1 CD ／ DVD のセット」

A CD ／ DVD がきちんとセットされていない場合は、ラベルがついている方を上にして、水平にセットしてください。

A ディスクトレイ内に異物がある場合は、取り除いてください。
何かはさまっていると、故障の原因になります。

A CD ／ DVD が汚れている場合は、乾燥した清潔な布で拭いてください。
それでも汚れが落ちなければ、水または中性洗剤で湿らせた布で拭き取ってください。

参照 CD ／ DVD の手入れ「3 章 6-❷ CD ／ DVD のセットと取り出し」

A CD ／ DVD を認識していない可能性があります。
ディスクトレイ LED が点滅している間は、まだ認識されていません。
消灯するまで待って、もう 1 度アクセスしてください。

Q ディスクトレイ LED が消えない

A 大量のデータを処理しているときは、時間がかかります。
LED が消えるまで待ってください。
どうしても消えないときは作業を中断し、Ctrl ＋ Alt ＋ Del キーを押して再起動してください。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。
再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押し、電源を切ってから、もう 1 度電源を入れてください。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。
再起動後、同じ操作を行っても、LED が消えない場合は、電源を切り、保守サービスに連絡してください。

Q CD ／ DVD をセットしても自動的に起動しない

A 自動起動に対応している CD ／ DVD でも、自動的に起動しない場合があります。
起動している全てのアプリケーションを終了し、CD ／ DVD をセットし直してください。
それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

① ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

② ドライブのアイコンをダブルクリックする

Q CD ／ DVD が取り出せない

A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。
電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。

参照 CD ／ DVD の取り出し「3 章 6-❷-2 CD ／ DVD の取り出し」

Q パソコン本体の電源が入らないため、CD ／ DVD が取り出せない

A ドライブのイジェクトホールを先の細い丈夫なもので押してください。
イジェクトホールは、折れにくいもの（例えばクリップを伸ばしたものなど）で押してください。
折れた破片がパソコン内部に入ると、故障の原因になります。電源が入らないとき以外はこの処置をしないでください。特に、パソコンの動作中は絶対にしないでください。

参照 イジェクトホール「3 章 6-❷-2 CD ／ DVD の取り出し」

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
Fn ＋ Esc キーを押してミュートを解除してください。

A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする

② ［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を正しく設定する

④ ［OK］ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってサウンドドライバを再インストールしてください。

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

A PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

【インターネット】

Q ホームページが表示できない

A ホームページが使用しているプロトコルがパソコンの設定と一致していない可能性があります。

ご購入時は、HTTP1.0 プロトコルを使用しているホームページには接続できない設定になっています。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［ネットワークとインターネット接続］をクリックする

② ［インターネットオプション］をクリックする
［インターネットのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［詳細設定］タブで［プロキシ接続で HTTP1.1 を使用する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

ただし、［プロキシ接続で HTTP1.1 を使用する］チェックをはずすと、「Norton AntiVirus」の LiveUpdate ができなくなる場合がありますので、LiveUpdate を行うときはチェックを付けておくことをおすすめします。

【通信機能】

＊無線 LAN モデルのみ

Q 無線 LAN 機能が使えない

A 無線 LAN 機能が Off になっている可能性があります。
次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- 「ConfigFree」でデバイスを有効に切り替えてください。
  次の操作を行ってください。
  ① 通知領域の［ConfigFree］アイコンをクリックする
  「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。
  ② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから［有効］をクリックする

【周辺機器】

周辺機器については「4 章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。
［ハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

 「4 章 1-❶ 周辺機器を使う前に」

A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。

 周辺機器の接続について「4 章 1 周辺機器について」

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

Q 増設メモリが認識されない

A メモリを増設しても「東芝PC診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。
「4章8 メモリを増設する」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう1度取り付けてください。

【PCカード】

Q PCカードが認識されない

A PCカードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PCカードの接続について「4章2-❷ PCカードを使う」

Q PCカードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PCカードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

A 本製品はWindows専用モデルです。コマンドプロンプト上でのPCカードの使用はサポートしていません。

Q PCカードは認識されるが使用できない

A IRQが不足している可能性があります。
次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［システム］をクリックする
② ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
③ 使用しない装置の種類をダブルクリックする
④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする
⑤ メッセージが表示されたら［はい］ボタンをクリックする
⑥ ［デバイス マネージャ］を閉じる
⑦ ［システムのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

#【USB対応機器／i.LINK対応機器*】

＊ i.LINK（IEEE1394）対応機器を示します。また、i.LINK内蔵モデルのみ使用できます。

Q USB対応機器／i.LINK対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について「4章 3 USB対応機器を接続する」
「4章 6 i.LINK（IEEE1394）対応機器を接続する」

A 電源を入れる必要のある機器の場合、USB対応機器／i.LINK対応機器の電源が入っているかどうか確認してください。

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器／i.LINK対応機器を認識していない可能性があります。
Windowsを再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順でインストールしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

Q 休止状態から復帰後、USB対応機器が正常に動作しない

A 休止状態に対応していないUSB対応機器を接続している可能性があります。
USB対応機器をUSBコネクタから取りはずし、もう1度接続してください。
それでもUSB対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

#【アプリケーション】

Q アプリケーションが使えない

A 正しくインストールしていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

A メモリ容量が足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。
また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 メモリの増設について「4章 8 メモリを増設する」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。
終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
［Windows のセキュリティ］画面が表示された場合は、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

② ［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションをクリックする

③ ［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは再インストールできます。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってアプリケーションを再インストールしてください。

【メッセージ】

Q「Password=」と表示された

A「東芝 HW セットアップ」または BIOS セットアップで設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

パスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。

キーフロッピーディスクがない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワード、キーフロッピーディスクについて
「6 章 4 パスワードセキュリティ」

Q「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LED を確認してください。必要に応じてShift+CapsLock 英数キーを押して入力の状態を切り替え、もう 1 度入力してください。

Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のまま増設メモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。

次の操作を行ってください。

① 電源スイッチを5秒以上押し、パソコンを強制終了する

② 再び電源スイッチを押して、パソコンを再起動する
「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。

③「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、Enterキーを押す
Windowsが起動します。

Q「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリが不足しています。

時計用バッテリは、ACアダプタを接続し、電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリについて「5章 バッテリ駆動」

ACアダプタを接続後、次の手順で、BIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

① F1キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

② ↑↓←→キーを使って、[Date] を選択し、Spaceキーで日付を設定する

③ 手順②と同様に［Time］で時刻を設定する

④ Fn＋→キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

⑤ Yキーを押す
BIOSセットアップが標準設定の状態になり、終了します。
パソコンが再起動します。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。
［復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます］を選択し、
(Enter)キーを押してください。
Windowsが起動します。

Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」

A フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。
解決しない場合は、「付録 5-❶-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝PCダイヤルに連絡してください。

Q C:¥ >_のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。
次のいずれかの操作を行ってください。

- **コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える**
  (Alt)＋(Enter)キーを押してください。
- **コマンドプロンプト画面を終了する**
  ① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
  ② (Enter)キーを押す

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でハードディスクをチェックしてください。

① ［マイコンピュータ］を開く

② （C：）ドライブをクリックする

③ メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする

④ ［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする

⑤ ［チェック ディスクのオプション］で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする

⑥ ［開始］ボタンをクリックする
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝PCダイヤルに連絡してください。

参照 セーフモードについて『ヘルプとサポート センター』

Q パソコン本体からカリカリと変な音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。
ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入した販売店または保守サービスまで連絡してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。

使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。

次の方法で調整してください。

- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照 ボリュームダイヤル、ボリュームコントロールについて
「3 章 5-❶ スピーカの音量を調整する」

Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

A モジュラーケーブルがテレビ・ラジオの音を拾っている可能性があります。

モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、モジュラーケーブルを延長せずに使用して確認してください。

また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。

それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。契約している電話会社に相談してください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。
アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windowsを強制終了し、再起動してください。

強制終了の方法は、次のとおりです。
システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windowsのセキュリティ］画面が表示されます。

② ［シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ ［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで［シャットダウン］を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

● ドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windowsタスクマネージャ］画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③ ［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

ウイルスチェックソフトの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカへお問い合わせください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。
なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて『東芝 PC サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、「付録 5-❶-1 トラブルチェックシート」で、必要事項を確認のうえ、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

A OS ／アプリケーションのトラブルの場合は、各 OS ／アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 OS ／アプリケーションの問い合わせ先「9 章 6 問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 周辺機器の問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、ハードディスクのデータを消去する必要があります。
詳しくは「9 章 5 廃棄・譲渡について」を確認してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 電圧や電源プラグの形状を確認する

本製品のACアダプタは、100～240Vの電圧に対応しているので、この範囲内の電圧・周波数の国／地域で使用できます。

電源コード（電源プラグからACアダプタまでのケーブル）は、日本の法令・安全規格（AC100V）に適合しています。その他の国／地域で使用する場合は、使用電圧やプラグ形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 ACアダプタ、電源コード、電源プラグについて
「1章 1-❶ 電源コードとACアダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線LAN

国／地域によっては、モデムや無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。「付録3 技術基準適合について」や「付録4 無線LANについて」、またはカタログで、使用できる国／地域を確認してください。
それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（別売り）を使用するか、内蔵モデムや無線LAN機能の使用はお控えください。メーカ純正オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するためのアダプタ（別売り）が必要です。メーカ純正オプションはありません。各国／地域で安全規格に適合したコードや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法 「3章 8-❶ 海外でインターネットに接続する」

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- リカバリCD-ROM（同梱されているモデルの場合）
- Officeパッケージ（Office搭載モデルの場合）
- 保証書、ILW

再セットアップする必要が生じたときのために、リカバリ CD-ROM(同梱されているモデルの場合)、Office Personal 2003 および Office OneNote 2003 のパッケージ一式(Office 搭載モデルの場合)をお持ちください。
本製品はハードディスクまたはリカバリ CD-ROM から再セットアップできますが、Office Personal 2003 および Office OneNote 2003 は Office の CD-ROM から再インストールする必要があります。

参照 再セットアップについて「8 章 1 再セットアップとは」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*1 をお持ちください。
ILW(International Limited Warranty)は海外の所定の地域で ILW の制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書が ILW の保証書を兼ねています。
ILW についての詳細は、次のホームページも参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/ilw.htm

＊1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス(ローミングサービス)を行っていれば、通常通りにメール送受信が可能です。
旅立つ前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

＜必要な書類など＞

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の非該当証明」という書類が必要な場合がありますが、現在販売されている東芝のパソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合には、基本的に必要ありません。ただ、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合は、輸出許可が必要となる場合があります。
また、米国政府の定める輸出規制国(キューバ、リビア、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、スーダン、シリア)に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。
輸出法令の規制内容や手続きの詳細は、経済産業省 安全保障貿易管理のホームページなどを参照してください。

海外で使用する場合については、次のホームページも参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/faq/pcdata/800008.htm

8章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。よく読んでから行ってください。

1 再セットアップとは

システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

① 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、「7 章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

再セットアップが必要な場合	再セットアップ方法
ハードディスクをフォーマットしてしまった	システムを復元する
ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった	
電源を入れても、システム（Windows）が起動しない	
プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい	アプリケーションやドライバごとに再インストールする

② 再セットアップ方法

再セットアップには、次の方法があります。目的にあった再セットアップ方法を選んでください。

【 システムを復元する 】
システムを購入時の状態に戻します。プレインストールされているアプリケーションの一部を復元します。

参照 詳細について「本章 3 システムの復元」

【 アプリケーションやドライバごとに再インストールする 】
プレインストールされているアプリケーションのなかから、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールできます。

参照 詳細について「本章 4 アプリケーションを再インストールする」

3 再セットアップする前に

1 トラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、「7章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

2 データのバックアップをとる

システムの復元をすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。
システムの復元後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。
標準システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

3 パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す

フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードウェアドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

4 リカバリ CD-ROM について

本製品にはモデルによってリカバリ CD-ROM が同梱されています。
リカバリ CD-ROM は再セットアップするときに使用します。絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。
また、リカバリ CD-ROM は本製品専用です。他のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

リカバリ CD-ROM が同梱されていない場合でも、DVD スーパーマルチドライブモデルまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルでは、リカバリメディアを作成することができます。

参照 詳細について「本章 2 システム復元ツールのバックアップをとる」

2 システム復元ツールのバックアップをとる

＊ DVD スーパーマルチドライブモデルまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルで、リカバリ CD-ROM が同梱されていない場合のみ

リカバリ CD-ROM が同梱されていないモデルには、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのシステム復元（リカバリ）ツールが内蔵されています。
DVD スーパーマルチドライブモデルまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルで、リカバリ CD-ROM が同梱されていない場合は、「Recovery（リカバリ） Disc（ディスク） Creator（クリエイタ）」を使って、システム復元（リカバリ）ツールのバックアップ（リカバリディスク）を作成できます。
作成したリカバリディスクから、システムを復元できます。

あらかじめ、リカバリディスクを作成して、システム復元（リカバリ）ツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。

お願い

- 「Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。
- 「RecordNow!」をアンインストールした場合は、「Recovery Disc Creator」が使用できません。必ず、「RecordNow!」をインストールした状態で行ってください。
  ご購入時の状態では、「RecordNow!」はインストールされていません。
  初めて使用するときには、インストールが必要です。

参照 「RecordNow!」について
「3 章 6-❶ 4 CD ／ DVD への書き込みについて」

- CD-ROM ドライブモデル、リカバリCD-ROMが同梱されているモデルの場合、「Recovery Disc Creator」のインストールはできますが、使用することはできません。

メモ

- システム復元（リカバリ）ツールは、CD メディアにバックアップをとることができます。お買い上げのモデルによっては、メディアに使用できるものとできないものがあります。

参照 使用できる CD メディアについて 「3 章 6 ドライブ」

- CD メディアは、650MB 以上の容量のものをご使用ください。

システム復元ツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 インストール方法

初めて「Recovery Disc Creator」を使用するときには、インストールが必要です。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **画面のメッセージに従ってインストールする**

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 **[スタート]→[すべてのプログラム]→[リカバリメディア作成ツール]をクリックする**

「Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「Recovery Disc Creator」で作成するディスクの種類は、リカバリ CD のみです。DVD 書き込み機能のあるモデルの場合でも、リカバリ DVD を作成することはできません。

3 リカバリディスクを作成する

1 ［名前］で作成するディスクをチェックする（ ☑ ）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

2 バックアップをとるCDメディアをセットする

3 ［書込み］ボタンをクリックする

書き込みが開始され、［進捗状況］に「ディスクに書込み中...」と表示され、画面下に残りの時間が表示されます。
書き込みを途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

4 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

書込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってCDメディアを入れ替えてください。作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスク作成後は、忘れずに「リカバリCDディスクXX」とレーベルをつけてください。システムを復元するとき、この番号通りにディスクを使用しないと、システムは正しく復元されません。必ずディスク番号がわかるようにレーベルをつけてください。

5 ［閉じる］ボタン（ ☒ ）をクリックする

[Recovery Disc Creator]画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

作成したリカバリディスクは、大切に保管してください。紛失してしまった場合は、東芝PCダイヤル（「付録5-❶ 東芝PCダイヤル」参照）にご相談ください。

リカバリディスクからシステムを復元する操作手順については、「本章3-❷-1- 作成したリカバリディスクからシステムを復元する場合」を参照してください。

3 システムの復元

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。
Office搭載モデルの場合、Office Personal 2003、Office OneNote 2003は、システムの復元後、さらに同梱のCD-ROMで再インストールする必要があります。

詳細について
「本章 4-❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」

1 はじめる前に

システムの復元を行う前に、次の準備を行ってください。

【 必要なもの 】

- 『取扱説明書』（本書）
- リカバリCD-ROM（同梱されているモデルの場合）
- リカバリディスク（作成したリカバリメディアからシステムを復元する場合）

【 準備 】

- 必要なデータを保存する
  システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
  ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。
- パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す
  フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードディスクドライブやメモリなどを取りはずしてください。

参照 機器の取りはずし「4章 周辺機器の接続」

お願い

市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、再セットアップができなくなることがあります。

8章 再セットアップ

② システムを復元する

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。
システムを復元する手順は、ご購入のモデルや復元方法によって異なります。

- リカバリ CD-ROM が同梱されていないモデル
  ハードディスクからシステムを復元します。
  ※ システム復元ツールのバックアップディスクを作成した場合は、そのバックアップディスク（リカバリディスク）からシステムを復元することもできます。
- リカバリ CD-ROM が同梱されているモデル
  リカバリ CD-ROM からシステムを復元します。

1 操作手順－リカバリCD-ROMが同梱されていないモデル

システムを復元するには、ハードディスクから行う方法とあらかじめ作成したリカバリディスク＊1から行う方法の2つがあります。

参照 リカバリディスクの作成
「本章 2 システム復元ツールのバックアップをとる」

通常は、ハードディスクからシステムを復元してください。ハードディスクのリカバリツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからシステムが復元できなかった場合などは、リカバリディスクからシステムを復元することをおすすめします。

＊1 リカバリディスクは、DVD スーパーマルチドライブモデルまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ作成できます。

【 ハードディスクからシステムを復元する 】

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 パソコンの電源を切る

3 キーボードの〔0〕（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

4 実行したい項目の番号のキーを押す

それぞれの項目の意味と動作は、次のようになります。

選択項目	説　明	選択した後の動作
①を選択した場合	パソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻します。作成したデータや設定した項目、インストールしたアプリケーションなどは、すべて消失します。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 手順5に進んでください。
②を選択した場合	前回「③パーティションサイズを指定して復元」を選択して再セットアップをしている場合に使用します。 複数に分割したパーティションの、Cドライブを購入時の状態にします。その他のパーティションでは、購入後に入力したデータや設定をそのまま保持します。	「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 手順5に進んでください。
③を選択した場合	［マイ コンピュータ］のCドライブ（ハードディスク）のパーティションのサイズを変更して、Cドライブを購入時の状態にします。作成したデータや設定した項目、インストールしたアプリケーションなどは、すべて消失します。再セットアップ終了後は、Cドライブだけ表示されます。管理ツールで設定すると、C以外のパーティションもドライブとして表示できます。 管理ツールでの設定方法の詳細は「本項3 パーティションを設定する」を参照してください。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 ① Yキーを押す ［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。 ② ←→キーを使ってパーティション（Cドライブ）のサイズを指定する ③ Enterキーを押す 「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。 手順6に進んでください。

④を選択した場合	ハードディスク上にある、再セットアップ用のデータ領域以外のデータをすべて削除します。詳細は「9章5-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。	「HDD リカバリ領域以外は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。詳細は「9章5-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。

メモ

システムを復元する場合、通常は②を選択してください。事前に分割した、Cドライブ以外のパーティションにデータがある場合、手順４で②を選択すると、他のパーティションのデータを残して、Cドライブのシステムだけを復元できます。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外のパーティションにあるデータも使えないことがあります。

5 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

メモ

再セットアップ用のデータ領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

6 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう 1 度 0%から始まります。グラフが 2 度目に 100%に達すると完了です。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 何かキーを押す

システムが再起動します。

8 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、システムの復元後に［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールする必要があります。必要に応じて再インストールを行ってください。

  参照 詳細について「本章 4 アプリケーションを再インストールする」

- 「Norton AntiVirus」をインストールする場合は、アプリケーションのインストール後に表示されるメッセージに従って行ってください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続「4 章 周辺機器の接続」

【 作成したリカバリディスクからシステムを復元する場合 】

1 **AC アダプタと電源コードを接続する**

2 **リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る**

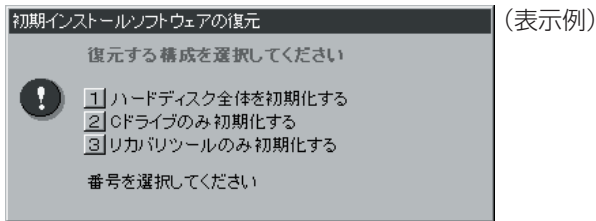
リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットし、以降画面のメッセージに従って入れ替えてください。

3 **キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源入れる**

4 **→ または ← キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、Enter キーを押す**

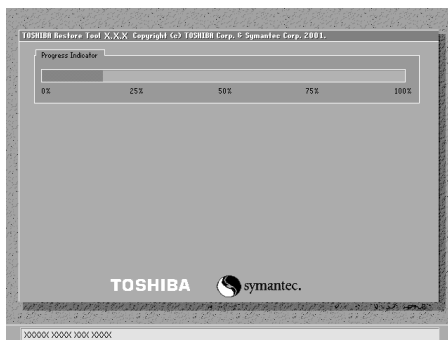
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

5 **実行したい項目の番号のキーを押す**

（表示例）

それぞれの項目の意味と動作は、次のようになります。

選択項目	説　明	選択した後の動作
①を選択した場合	パソコンを購入したときの状態に戻します。作成したデータや設定した項目、インストールしたアプリケーションなどは、すべて消失します。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
②を選択した場合	C ドライブだけをパソコン購入時の状態に戻します。複数にパーティションを分割している場合は、その他のパーティションでは、購入後に入力したデータや設定をそのまま保持します。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
③を選択した場合	リカバリツールだけをパソコン購入時の状態に戻します。	「よろしいですか?」というメッセージが表示されます。

6 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。（手順５で③を選択した場合は、この画面は表示されません。）
復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう１度0%から始まります。グラフが２度目に 100%に達すると完了です。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 何かキーを押す

システムが再起動します。

8 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について 「1 章 2 Windows のセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、システムの復元後に［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールする必要があります。必要に応じて再インストールを行ってください。

  参照 詳細について「本章 4 アプリケーションを再インストールする」
- 「Norton AntiVirus」をインストールする場合は、アプリケーションのインストール後に表示されるメッセージに従って行ってください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう１度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 「4 章 周辺機器の接続」

2 操作手順－リカバリCD-ROMが同梱されているモデル

1 AC アダプタと電源コードを接続する

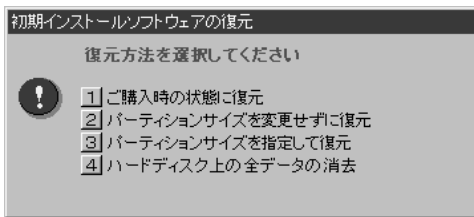
2 「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットして、パソコンの電源を切る

リカバリ CD-ROM は、以降画面のメッセージに従って入れ替えてください。

3 キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

4 → または ← キーで CD のアイコン（ ）にカーソルを合わせ、Enter キーを押す

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

5 実行したい項目の番号のキーを押す

それぞれの項目の意味と動作は、次のようになります。

選択項目	説　明	選択した後の動作
①を選択した場合	パソコンを購入したときの状態に戻します。作成したデータや設定した項目、インストールしたアプリケーションなどは、すべて消失します。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 手順６に進んでください。
②を選択した場合	前回「③パーティションサイズを指定して復元」を選択して再セットアップをしている場合に使用します。 複数に分割したパーティションの、C ドライブを購入時の状態にします。その他のパーティションでは、購入後に入力したデータや設定をそのまま保持します。	「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 手順６に進んでください。

③を選択した場合	［マイ コンピュータ］の C ドライブ（ハードディスク）のパーティションのサイズを変更して、C ドライブを購入時の状態にします。作成したデータや設定した項目、インストールしたアプリケーションなどは、すべて消失します。再セットアップ終了後は、C ドライブだけ表示されます。管理ツールで設定すると、C 以外のパーティションもドライブとして表示できます。 管理ツールでの設定方法の詳細は「本項 3 パーティションを設定する」を参照してください。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。 ① Ⓨキーを押す ［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。 ② ←→キーを使ってパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する ③ Enterキーを押す 「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。 手順 7 に進んでください。
④を選択した場合	ハードディスク上のデータをすべて削除します。詳細は「9 章 5-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。	「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。詳細は「9 章 5-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。

メモ

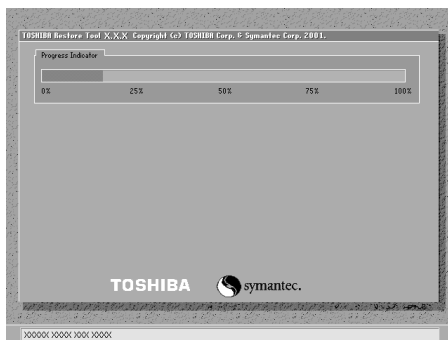
システムを復元する場合、通常は②を選択してください。事前に分割した、C ドライブ以外のパーティションにデータがある場合、手順 5 で②を選択すると、他のパーティションのデータを残して、C ドライブのシステムだけを復元できます。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外のパーティションにあるデータも使えないことがあります。

6 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

7 (Y)キーを押す

処理を中止する場合は、(N)キーを押してください。
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう 1 度 0%から始まります。グラフが 2 度目に 100%に達すると完了です。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 CD を取り出し、何かキーを押す

システムが再起動します。

9 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、システムの復元後に［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールする必要があります。必要に応じて再インストールを行ってください。

  参照 詳細について「本章 4 アプリケーションを再インストールする」

- 「Norton AntiVirus」をインストールする場合は、アプリケーションのインストール後に表示されるメッセージに従って行ってください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続「4 章 周辺機器の接続」

3 Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする

＊ Office搭載モデルのみ

Office Personal 2003およびOffice OneNote 2003は、以上の手順では復元されません。同梱のCD-ROMで再インストールしてください。

参照 詳細について「本章4-❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」

ここまでで、購入時の状態の復元は完了です。パーティションの設定を変更してシステムを復元した場合のみ、次項［4］の操作を行ってください。

4 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更してシステムを復元した場合は、復元後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

リカバリCD-ROMが同梱されていないモデルでは、Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップ(システムの復元)するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

3 ［ 管理ツール］をクリックする

4 ［ コンピュータの管理］をダブルクリックする

5 左画面の［ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・パーティションの種類
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・ファイルシステム
・パーティションサイズ
・フォーマット

9 設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

【 ヘルプの起動 】

メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックしてください。

4 アプリケーションを再インストールする

アプリケーションを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

Office 搭載モデルの場合、Office Personal 2003 および Office OneNote 2003 を、システムの復元後に同梱の CD-ROM で再インストールする必要があります。「本節 ❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003 を再インストールする」を確認してください。

1 アプリケーションを再インストールする

再セットアップ後にアプリケーションを再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

- 『取扱説明書』(本書)

アプリケーションによっては、再インストール時に ID 番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする

＊ Office搭載モデルのみ
文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合はOffice Personal 2003をインストールする必要があります。
ここでは、Office Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式
- Microsoft® Office OneNote® 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。
再インストール方法とセットアップ方法の詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド』、『Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に』を確認してください。

【 Service Pack1 について 】

添付のCDからOffice Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack1は組み込まれません。［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールしてください。

参照 アプリケーションの再インストール
「本節 ❶ アプリケーションを再インストールする」

【「手書き入力パッド」を使用するとき】

Office Personal 2003を再インストールした場合、Microsoft Office Wordや Microsoft Office Excelなどのアプリケーションを使用するときに、IMEツールバーの［手書き］ボタン -［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。

言語の入力システム（MS-IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

9章

こんなときは

オンラインマニュアルやアプリケーションの問い合わせ先、お客様登録、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。
また、バッテリパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について知っておいて欲しいことなどを説明しています。

1 オンラインマニュアルについて

Windows が起動しているときに、取扱説明書（本書）をパソコン画面上で見ることができます。
次のように操作すると、「Adobe Reader」が起動し、「オンラインマニュアル」が表示されます。

初めて「Adobe Reader」を起動したときは、［エンドユーザ使用許諾契約書］画面が表示されます。契約内容をお読みのうえ、［同意する］ボタンをクリックしてください。［同意する］ボタンをクリックしないと、「Adobe Reader」をご使用になれません。また、「オンラインマニュアル」を見ることはできません。

起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［オンラインマニュアル］をクリックする

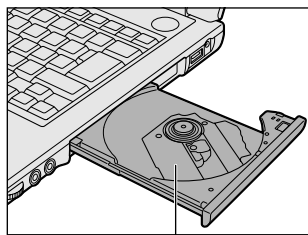
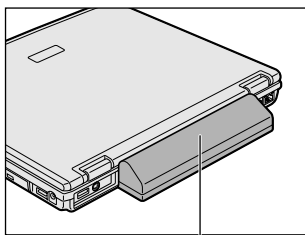
デスクトップ上にある［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

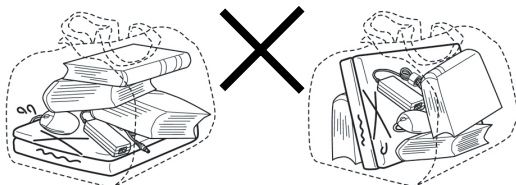
2 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
  電源を切って AC アダプタを取りはずした後に、すべての LED が消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD ／ DVD がセットされている場合は取り出してください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。

【例】

ディスクトレイ

大容量バッテリパック (8,800mAh)（取り付け時）

ここを持たないでください。

- 各スロットにメディアなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面が AC アダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れ方をしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

3 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- インターネットのお気に入り　など

消耗品について

【 バッテリパック 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリパックの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

- バッテリパック（2,200mAh）
- バッテリパック（4,700mAh）
- 大容量バッテリパック（8,800mAh）

（以上、すべて充電式リチウムイオン電池）

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、次のバッテリパック（別売り）と交換してください。

- バッテリパック (2,200mAh) PABAS048
- バッテリパック (4,700mAh) PABAS054
- 大容量バッテリパック (8,800mAh) PABAS050

【 バックライト用蛍光管 】

本体液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管は消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

付属品について

付属品については、株式会社 IT サービス（本社：044-540-2574）まで問い合わせてください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から 6 年 6ヶ月です。

4 お客様登録をする

お客様登録とは、自分が製品の正規のユーザ（使用者）であることを製品の製造元に登録することです。ユーザ登録ともいいます。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
東芝ID（TID）は、複数の東芝デジタル商品で共通にご利用いただけるお客様専用IDです。東芝デジタル商品をご購入された方が対象で、インターネット経由でご登録いただけます。
TIDをご登録後は、はがきでのご登録は必要ありません。

【 東芝ID（TID）でご利用いただけるサービス 】

- お客様専用個人ページ「Room1048（ルームトウシバ）」をご利用いただけます。
- PCオンラインによるメールでの技術相談をお受けいたします。
- アンケートなどでご取得いただくポイントで、プレゼントの抽選にご応募いただけます。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

お願い

- TID登録には、メールアドレスが必要です（携帯電話のメールアドレスはご遠慮ください）。
- 上記のサービス項目のうち、個人ページおよびポイント制度については、個人のお客様のみ対象となります。
- ご登録住所は、日本国内のみに限らせていただきます。
- この記載内容は2004年10月現在のものです。内容については、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

1 [東芝お客様登録]アイコンからのご登録方法

お客様の環境に応じて、TID登録を行う方法を選択できます。
ここでは、インターネットアクセス環境をお持ちでない場合に、本製品に添付のアプリケーション「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用して、TID登録を行う方法を説明します。
接続時間に応じた電話使用料金が電話会社より請求されますので、あらかじめご了承ください。

お願い **操作にあたって**

TID登録は、インターネットに接続して行います。あらかじめ、次のことを行ってください。

- コンピュータウイルスへの感染を防ぐために、ウイルスチェックソフトをインストールし、有効状態に設定しておいてください。
- 電話回線のタイプ（パルス、またはトーン）を確認しておいてください。
- モジュラーケーブルを接続しておいてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［東芝お客様登録］画面が表示されます。

2 内容を読んで［お客様登録へ進む］ボタンをクリックする

3 内容を読んで［インターネットアクセス環境をお持ちでない方はこちらをクリック］をクリックする

本製品に添付のアプリケーション「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用して、インターネットプロバイダ「infoPepper（インフォペッパー）」に接続し、東芝ID（TID）のホームページにアクセスします。

「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用しない場合は、次のいずれかの方法を選択してください。

- **インターネットアクセス環境をお持ちの方**
  ［インターネットアクセス環境をお持ちの方はこちらをクリック］をクリックしてください。
  インターネットに接続して、東芝ID（TID）のホームページにアクセスします。
  アクセス後は、TID登録を行ってください。
- **インターネット経由での登録を希望しない方**
  画面右上の［閉じる］（ ）ボタンをクリックし、画面を閉じてください。
  同梱されているお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、投函してください。
  『お客様登録カード』で登録された方へは「仮パスワード」を発行いたします。東芝デジタル商品共通の東芝ID（TID）は、「仮パスワード」を使い、インターネットから別途ご登録が必要です。
  「本項 3 インターネットにすぐに接続されないお客様」をご覧ください。

「いきなりインターネット」が起動します。
画面に従って設定を行ってください。

役立つ操作集

インターネットへの接続を終了するには

TID登録を完了した後は、インターネットへの接続を終了してください。

①通知領域の［接続］アイコン（ ）を右クリックする
②表示されたメニューから［切断］をクリックする
　接続が終了すると通知領域の［接続］アイコン（ ）が消えます。

（表示例）

［スタート］→［接続］→［infoPepper XX（接続先）］をクリックし、［infoPepper XX（接続先）の状態］画面で［切断］ボタンをクリックして、切断することもできます。

2 インターネットからのご登録方法

画面のご案内に従ってご登録ください。
すぐに TID をご取得、ご利用いただけます。

1 「http://room1048.jp/」にアクセスする

2 ［新規及び追加で商品のご登録をされるお客様］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

画面のご案内に従ってください。

- **初めて TID をご登録される方**
  ［新規登録］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、TID を発行いたします。
- **すでに他商品で TID を取得された方**
  TID、パスワードを入力し、［追加登録］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

3 インターネットにすぐに接続されないお客様

同梱の『お客様登録カード』（はがき）に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝 TID 事務局より、「お客様登録番号」と TID 登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットから TID をご登録ください。
TID はインターネットからのご登録受付になります。

- **初めて TID をご登録される方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/tid/」にアクセスし、「お客様登録番号」と「仮パスワード」を入力し、TID 登録を行ってください。
- **すでに他商品で TID を取得された方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、「Room1048」にログインした後、［登録情報変更］→［はがきを受け取られたお客様］を選択してください。

お願い

- TID登録時点でお客様登録番号は無効となります。TIDでのサービス･サポートをご利用ください。
- TIDをご登録にならない場合は、お問い合わせなどの際にお客様登録番号が必要になることがありますので、はがきをお手元に保管してください。

2 その他のユーザ登録

1 Windows XPのユーザ登録

登録すると、マイクロソフト社よりマイクロソフト社製品に関する製品情報やイベント情報などを得ることができます。
登録は、インターネットで行います。インターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

1 ［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックする
［ヘルプとサポート センター］画面が表示されます。

2 画面左の［Windows XP の新機能］をクリックする

3 画面左の［ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録］をクリックする

4 画面右の［オンライン ユーザー登録を使用する］をクリックする

5 画面右の説明文中の［ユーザー登録ウィザード］をクリックする
［Microsoft Windows XP ユーザー登録ウィザード］が起動します。

6 表示される画面に従って登録を行う
ユーザー ID を持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の［マイクロソフト オフィシャルユーザー ID］欄に「WindowsXP」と入力してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

パソコンに用意されている他のアプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「本章 6 問い合わせ先」を確認してください。

5 廃棄・譲渡について

1 バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

【 バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先 】

有限責任中間法人 JBRC
TEL ：03-6403-5673
URL ：http://www.jbrc.com

2 パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。次の要領にて処理してください。
（本製品は、LCD 表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。）

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PC リサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【 問い合わせ先 】

東芝パソコンリサイクルセンター
電話番号 ：045-510-0255
受付時間 ：9：00 ～ 17：00（土・日・祝日・当社指定の休日を除く）
FAX ：045-506-7983（24 時間受付）

【 東芝ホームページでご紹介 】

URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

2 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆ データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆ 再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業しますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。

参照 「本項４ ハードディスクの内容をすべて消去する 」

この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。
URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

3 お客様登録の削除について

● ホームページから削除する

東芝 ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。
①インターネットで「http://room1048.jp/」へ接続する
② ページ左側の［東芝 ID（TID)］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする
「登録者変更メニュー」にログインします。
③ 退会を選択し、登録を削除する

● 電話で削除する

「東芝 ID 事務局（お客様情報変更)」までご連絡ください。

- 東芝 ID 事務局（お客様情報変更）
  TEL：03-3457-4861
  受付時間：9：00 ～ 17：00（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

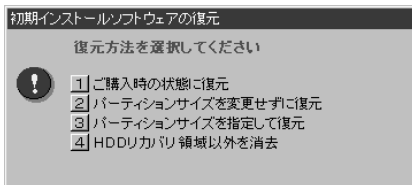
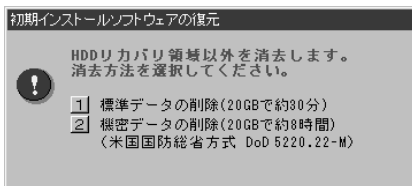
法人のお客様の場合、サービス内容が家庭のお客様の場合と異なります。
詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

4 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。
なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

ハードディスクの内容をすべて消去する手順は、ご購入のモデルによって異なります。

【 リカバリ CD-ROM が同梱されていないモデル 】

① AC アダプタと電源コードを接続する
② パソコンの電源を切る
③ キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

④ 4キーを押す
「HDD リカバリ領域以外は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Nキーを押してください。
⑤ Yキーを押す
データの消去方法を選択する画面が表示されます。

⑥ 目的にあわせて、1または2キーを押す
通常は、1キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、2キーを押してください。数時間かかりますが、HDD リカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、データは消去されます。

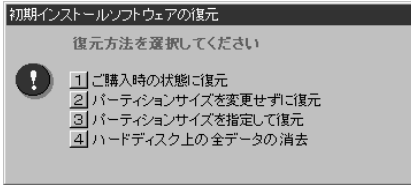
【 リカバリ CD-ROM が同梱されているモデル 】

① AC アダプタと電源コードを接続する

②「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットして、パソコンの電源を切る

③ キーボードのF12キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

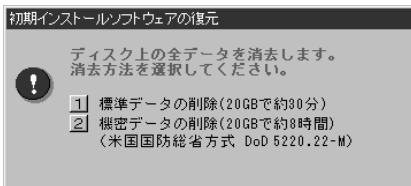
④ →または←キーでCDのアイコン（ ）にカーソルを合わせ、Enterキーを押す

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

⑤ 4キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

⑥ Yキーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

⑦ 目的にあわせて、1または2キーを押す

通常は、1キーを押してください。データを読み取れなくなります。

より確実にデータを消去するためには、2キーを押してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

⑧ Yキーを押す

メッセージが表示され、データの消去処理が開始されます。

6 問い合わせ先

＊2004年10月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

本製品に添付されているアプリケーションやプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。
各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

1 OSの問い合わせ先

Windowsセキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows XPに関する一般的なお問い合わせは、東芝PCダイヤルになります。

② アプリケーションの問い合わせ先

Adobe Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／InterVideo WinDVD／JavaTM 2 Runtime Environment／Microsoft Office OneNote／Outlook Express／PadTouch／TOSHIBA Smooth View／Windows Media Player／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／東芝省電力／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ

東芝（東芝PCダイヤル）

ナビダイヤル 0570-00-3100（サポート料無料）

受付時間　：9:00〜19:00（年中無休）

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。
なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。

電話番号はお間違えのないようお確かめのうえ、おかけくださいますようお願いいたします。お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。
拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。

ご注意
・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。
・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

Microsoft Office Excel／Microsoft Office Home Style+／Microsoft Office Outlook／Microsoft Office Word

マイクロソフト 無償サポート

〈TEL〉

ＴＥＬ　：東京：03-5354-4500
　　　　　大阪：06-6347-4400

※次の情報をお手元に用意してご連絡ください。
郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID
詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。

〈受付時間・お問い合わせ回数〉

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

受付時間　：9:30〜12:00、13:00〜19:00（平日）
10:00〜17:00（土曜日、日曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます）

回数　：指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間　：9:30〜12:00、13:00〜19:00（平日）
10:00〜17:00（土曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）

回数　：4インシデント（4件のご質問）

インシデント制など詳細については『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL　：http://support.microsoft.com/

※電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。

備考　：マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。

答えてねっと　：http://www.kotaete-net.net/

infoPepper

東芝情報システム株式会社 infoPepperインターネットサービスサポート窓口

TEL　　　　　：044-201-0450
受付時間　　　：10:00〜12:00、13:00〜17:00（休業日を除く月曜〜金曜）
ＦＡＸ　　　　：044-246-1131
ＦＡＸ・音声
情報サービス　：044-201-0449（24時間受付）
E-mail　　　　：support@staff.pep.ne.jp
ホームページ　：http://www.pep.ne.jp/

Norton AntiVirus

●技術的なお問い合わせ

シマンテック コンシューマ テクニカルサポートセンター

受付時間 ： 10:00〜17:00（土・日・祝祭日を除く）

本センターをご利用頂くためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートチケットをご購入頂くか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

※テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

ユーザー登録

ホームページ：
http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/regist/oem/toshiba/index.html

DLA for TOSHIBA／RecordNow! Basic for TOSHIBA

ソニック・サポートセンター

ＴＥＬ　　　　：03-5232-6400
受付時間　　　：10:00〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝祭日・年末年始・特別行事日を除く）

お問い合わせは、ソニック・ソルーションズのサポートページのメールサポートフォームより質問内容をお送りください。

ホームページ　：http://www.sonicjapan.co.jp/support/index.html

gooスティック

goo事務局

受付時間　　　：10:00〜17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
ＴＥＬ　　　　：045-848-4190
E-mail　　　　：info@goo.ne.jp
ホームページ　：http://stick.goo.ne.jp

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

1　本製品の仕様

1 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「3 章 4-❶-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

【 Pentium モデルの場合 】

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85/100
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット*1	—		
—		1400 x 1050ドット*1	—		60/75/85
—		1600 x 1200ドット*1	—		60/75/85/100
—		1920 x 1440ドット*1	—		60/75/85
—		2048 x 1536ドット*1	—		60/75
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85/100
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット*1	—		
—		1400 x 1050ドット*1	—		60/75/85
—		1600 x 1200ドット*1	—		60/75/85/100
—		1920 x 1440ドット*1	—		60/75/85
—		2048 x 1536ドット*1	—		60/75
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85/100
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット*1	—		
—		1400 x 1050ドット*1	—		60/75/85
—		1600 x 1200ドット*1	—		60/75/85/100
—		1920 x 1440ドット*1	—		60/75/85
—		2048 x 1536ドット*1	—		60/75

＊1　LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードは、マルチモニタでは使用できません。

付録

【 Celeronモデルの場合 】

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGAテキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGAグラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット		2/256K	
7	VGAテキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGAグラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
–	SVGAグラフィックス	640 x 480ドット	–	256/256K	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*1	–		
–		1400 x 1050ドット*1	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*1	–		
–		1920 x 1440ドット*1	–		60
–		640 x 480ドット	–	64K/64K	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*1	–		
–		1400 x 1050ドット*1	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*1	–		
–		1920 x 1440ドット*1	–		60
–		640 x 480ドット	–	16M/16M	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*1	–		
–		1400 x 1050ドット*1	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*1	–		
–		1920 x 1440ドット*1	–		60

＊1　LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードは、マルチモニタでは使用できません。

2 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする**

2 **画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする**

3 **調べたい項目をクリックする**

メモリマップ　：［メモリ］
I/O ポートマップ　：［I/O］
IRQ 使用リソース　：［IRQ］
DMA 使用リソース　：［DMA］

3 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。

⚠ 警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注 意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますのでモデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ 増設メモリカバーをはずす
⑤ モデムカバーのネジ 1 本をゆるめる
⑥ モデムカバーをはずす
⑦ 接続コードをモデムボードに取り付ける
⑧ モデムボードを固定用の 2 本のネジでパソコン本体に取り付ける
⑨ モデムカバーをはめ、手順⑤でゆるめたネジ 1 本でとめる
⑩ 増設メモリカバーを取り付ける
⑪ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ 増設メモリカバーをはずす
⑤ モデムカバーのネジ 1 本をゆるめる
モデムカバーをはずします。
規格（PTT ラベル）を確認することができます。
⑥ モデムボードを固定しているネジ 2 本を取りはずす
ネジはなくさないように大切に保管しておいてください。
⑦ モデムボードをパソコン本体から取りはずす
⑧ 接続コードをモデムボードから取りはずす
⑨ モデムカバーをはめ、手順⑤でゆるめたネジ 1 本でとめる
⑩ 増設メモリカバーを取り付ける
⑪ バッテリパックを取り付ける

4 回復コンソール

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。
回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用方法は『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

回復コンソールのインストール

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥windows¥i386¥winnt32.exe /cmdcons」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

［Windows セットアップ］画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。
「ファイル XXXX.... を読み込めなかったため、アップグレードオプションは現在利用できません。....」というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。回復コンソール開始の確認画面が表示されます。
インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続行することができます。

回復コンソールの操作方法

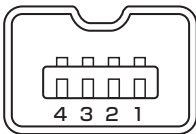
1 電源スイッチを押す

パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
通常、システムを起動する場合は、「Microsoft Windows XP Professional」を選択してください。

2 「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、Enterキーを押す

画面のメッセージに従ってください。
最後に「C:¥WINDOWS>_ 」が表示されます。

3 コマンドを入力する

「help」を入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。
回復コンソールを終了したい場合は「exit」と入力してください。パソコンが再起動します。

2 各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

＊ i.LINK 内蔵モデルのみ

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TPB−	ストローブ受信／データ送信 （2対の差動信号）	
2	TPB＋	ストローブ受信／データ送信 （2対の差動信号）	
3	TPA−	データ受信／ストローブ送信 （2対の差動信号）	
4	TPA＋	データ受信／ストローブ送信 （2対の差動信号）	
コネクタ図			

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

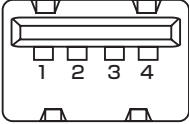
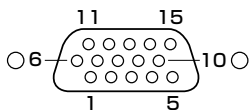
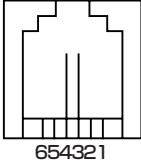
2 S-Video 出力インタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	C信号	色信号	O
2	Y信号	輝度信号	O
3	GND	信号グランド	
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

3 RGBインタフェース

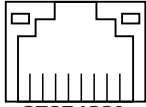
ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	＋5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 USBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			

654321

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 LANインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			

87654321

信号名：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

「7章 2 Q&A集
その他-Q.パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook Satellite T11 series
Model number : PSA50N

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

●回線規格ラベル

本製品の内蔵モデムには、次の回線規格ラベルが貼付してあります。

URST
1336
c US
E188325
RO 133 MD 2002
INSTYTUT LACZNOSCI
Nr. 2/2002
TEC/WR/I/MOD-08/01/068.SEP 02
PTA Approved
S.A
5300-013040
IC:1353A-L4AINT
REN:0.0
NTC
Type Approved
No.: ESD-CPE-0200403
TELEPERMIT
This ASKEY 1456VQL4A(INT) Internal Modem may be connected to the Telecom Network
RN=0.5
PTC 211 / 02 / 104
Factory ID:
(01) 07898369270034
ANATEL
0644-02-1110
A000407
ČTÚ 2002 N
T 1673

TÚ SR T 225
2002 N
交通部電信總局
審驗合格標籤
號碼:C91-M028-F
ME 30
Morocco:1833/2002
ΔKΔT-7-294/02X
기기의 명칭(모델명):1456VQL4A(INT)
인증번호:TE-A23/K012-02-0177
인증받은 자의 상호:ASKEY COMPUTER CORP.
제조년월일:2002
제조자/제조국가:ASKEY COMPUTER CORP./대만
MIC
ASKEY COMPUTER CORP.
Made in China
CM-2
Model:1456VQL4A(INT)
Rated: 3.3Vdc, 300mA
Tested to Comply
with FCC Standards
FOR HOME OR OFFICE USE
Compliance with FCC Part 68. REN:0.0B
FCC NO.:US:H8NM500BL4AINT
Mexico: SCT TTDAS1402-393
Argentina: CNC 54-2690
Complies with IDA Standards
52969319D
Complies with Canadian
ICES-003 class B
N723
Type approval No:7-1894-0-100303
Valid from:29/8/02
Permit No:13-1894-0-100304
Valid from:29/8/02
認定番号A02-0604JP
E 02/01/062/G
黏貼處

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2004 年 11 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

＊ 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem

- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1. NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
   Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
   The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
   Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
   Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
   Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2. The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
   The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
   For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

   NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3. The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
   CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

付録

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-820
（DVD スーパーマルチドライブ）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

TEAC DVDスーパーマルチドライブ DV-W24E (DVDスーパーマルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で"クラス1レーザー機器"に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

   CLASS 1 LASER PRODUCT
   LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Panasonic CD-RW ／ DVD-ROM ドライブ UJDA750 （DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ） 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Panasonic CD-RW／DVD-ROM ドライブ UJDA760（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

付録

HITACHI LG DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ GCC-4241N（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

東芝サムスン ストレージ・テクノロジー DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ SD-R2512（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

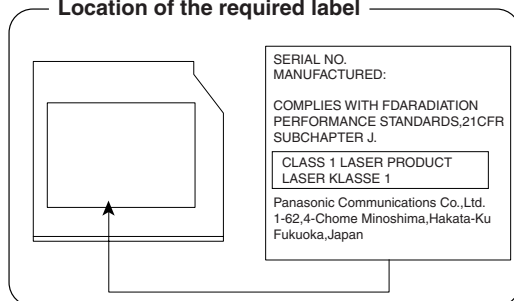
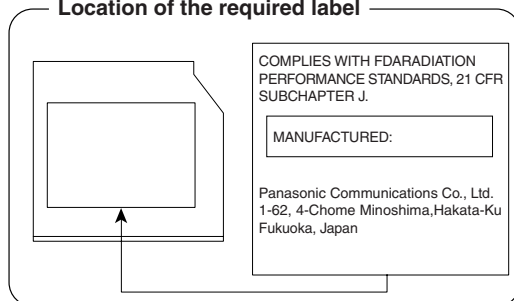
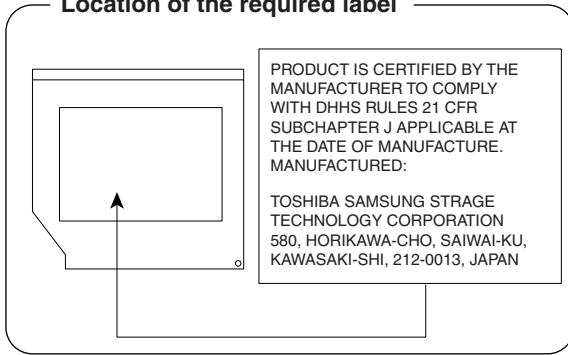
⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で“クラス1レーザー機器に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー製品
TO EN 60825-1:1994 / A2:2001

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

DANGER -VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. (for 21 CFR)
CAUTION -CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION -LASER DE CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE, EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE DE L'OEIL OU DE LA PEAU RAYONNEMENT DIRECT OU DIFFUS.
VORSICHT -SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL -KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL -KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO! -LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING -SYNLIG OCH OSYNLIG KLASSE 3B LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
注意 -打开时有3B等級的可见及不可见激光辐射。避免激光束照射。
注意 -ここを開くとクラス3B可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームに身をさらさないこと。

Location of the required label
PRODUCT IS CERTIFIED BY THE
MANUFACTURER TO COMPLY
WITH DHHS RULES 21 CFR
SUBCHAPTER J APPLICABLE AT
THE DATE OF MANUFACTURE.
MANUFACTURED:
TOSHIBA SAMSUNG STRAGE
TECHNOLOGY CORPORATION
580, HORIKAWA-CHO, SAIWAI-KU,
KAWASAKI-SHI, 212-0013, JAPAN

TEAC CD-ROM ドライブ CD-224E 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。
   感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION - INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN DO NOT STARE INTO BEAM OR VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS

VORSICHT - UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET NICHT IN DEM STRAHL BLICKEN AUCH NICHT MIT OPTISCHEN INSTRUMENTEN

VARNING - OSYNL IG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD STIRRA IJ IN I STRÄLEN OCH BETRAKTA EJ STRÄLEN MED OPTISKA INSTRUMENT

4 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る" 障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照)。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】

IEEE802.11b ／ IEEE802.11g

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 ＊1
11	2462
12	2467 ＊2
13	2472 ＊2
14	2484 ＊2

＊1 購入時に設定されているチャネルです。
＊2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、「本節 6 ご使用になれる国／地域について」を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- アドホックモードで無線 LAN 接続する場合は、購入時の設定ではチャネル 10 が使用されます。

付録

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【 1. ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

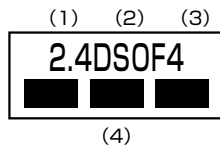
【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

（1）　(2)　(3)

2.4DSOF4

■■■

(4)

（1）2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
（2）DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
　　OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
（3）4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
（4）■ ■ ■　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. 東芝PCダイヤル 】

受付時間　：9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル：0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：WM3B2200BG
株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：003NY03120 0000,
D03-0064JPB

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthognal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G)（無線LAN標準規格(版数 B/G)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

【 健康への影響 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

● 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
● ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prét à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/: Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig.Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise.Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France.Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure á suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14　Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17　Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.
The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

6 ご使用になれる国／地域について

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。
  これらの国／地域以外では使用できません。
- 802.11b および 802.11g モードでのアドホック接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。
- 802.11b および 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。

【 802.11b/g (2.4GHz) 】

オーストラリア	オーストリア	ベルギー
カナダ	デンマーク	フィンランド
フランス	ドイツ	アイスランド
アイルランド	イタリア	リヒテンシュタイン
ルクセンブルク	オランダ	ノルウェー
ニュージーランド	ギリシャ	ポルトガル
スペイン	スウェーデン	スイス
イギリス	アメリカ合衆国	日本
ブルガリア	ハンガリー	ヨルダン
オマーン	フィリピン	ポーランド
シンガポール	スロバキア	トルコ

付録

5 東芝PCダイヤルのご案内

パソコンの操作について、困ったときは、東芝PCダイヤルに連絡してください。
技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

1 東芝PCダイヤル

ナビダイヤル
全国共通電話番号 0570-00-3100（サポート料無料）

＊受付時間／9：00～19：00（年中無休）
システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。
なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。
[電話番号はまちがえないよう、確認してかけてください]

電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これは全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスを契約している場合でも、自動的にNTT回線を使用することになります。

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。

円滑に対応するために、次ページの「本項 1 トラブルチェックシート」でパソコンの使用環境について確認してから、東芝PCダイヤルにお問い合わせください。

1 トラブルチェックシート

東芝 PC ダイヤル（左ページ参照）では電話での dynabook の技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

Q.1 使用しているパソコンの型番は？
型番は本体裏面のラベルに記載されています。

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？
Windows XP など、使用しているシステムとアプリケーションは？
システムのバージョンや CPU の種類を「東芝 PC 診断ツール」で確認してください。

Q.3 どのような症状が起こりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？
表示された場合、表示内容をお知らせください。

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？
□ 一度発生したが、その後発生しない　□ 常に発生する
□ 電源を切らないと発生するが、電源を切ってから再起動すれば発生しない
□ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する　□ その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？
□ ある一定の操作をすると発生する
□ どんな操作をしても発生する　□ その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合
プロバイダ名：　使用モデム名：
使用回線：□ ブロードバンド　□ ダイヤルアップ接続
□ ISDN 接続　□ 携帯電話・PHS 接続

Q.9 周辺機器に関する相談の場合
機器名（製品名）：　メーカー名：

付録

さくいん

記号

A

B

C

D

F

I

L

M

N

P

R

S

T

U

W

ア

イ

エ

オ

カ

キ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

ツ

テ

ト

ナ

ハ

ヒ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

モ

ユ

リ

ワ

さくいん